ＪＡＭ農・建機部会

食のアンケート調査報告書

2008 年 2 月 1 日

ＪＡＭ

はじめに

ＪＡＭ農建機部会は、日本の食料自給率が、先進国中最も低く、カロリーベースで 40%しかないことに問題意識を持ち調査研究活動を行ってきた。2007 年は、活動の一環として消費者の意識調査を実施し、消費者側から見た食料問題に取り組んだ。調査を実施した 2007 年は、年明け早々、不二家の消費期限切れ原材料の使用から始まり、ミートホープ、白い恋人、赤福、船場吉兆、比内地鶏、など原材料の偽装や消費期限の改ざんと立て続けに問題が表面化した。

ＪＡＭ農建機部会の取り組みの重要性が改めて感じる出来事ばかりだった。調査時期では、まだ、大きな出来事として問題が拡大する前であったため、回答の中には、現時点の感覚で判断した場合、もっと厳しい意見が出たであろう項目もある。

過度の反応による食物の大量廃棄も直に見えない隠れた問題として捉えていくことも必要である。

食料問題は、日本だけの問題ではなく、オーストラリアの小麦の不作やブラジルのとうもろこしからのメタノールへの転換、気候変動による海水温の変化による漁場の移動など普段は気にすることの無い変化が、食卓に影響を与えはじめている。

食と世界の気候変動、温暖化対策は、今後密接なかかわりを持ち、私たちの生活に確実に影響を与えてくる。もはや、食料は、いつでも、何でも、誰でも、安全で安心できる食料が安価で手に入る時代を過ぎてしまったのかもしれない。この問題に、どのように向かっていくべきか、労働組合は、生活者、産業人としての視点で幅広く議論を行い、提言を行っていくことが必要になっている。

1. 2007 年に起こった主な食の不祥事

1 月　不二家期限切れ原料使用
2 月　ほっかほっか亭消費期限を超過したサラダやミニうどんなどを販売
　　ロイヤルホスト食パンの消費期限偽装
6 月　ミートホープ食肉偽装
7 月　丸亀市精肉店ではオーストラリア産牛肉を国産と偽って学校給食に納入
8 月　菓子・白い恋人の「石屋製菓」製造日偽装
9 月　赤福製造日偽装
10 月　比内鶏偽装表示事件
　　御福餅（もち）本家製造日偽装
11 月　博多っ子本舗製造年月日や賞味期限を改竄
12 月　船場吉兆偽装表示事件

次から次と問題が発覚した。特に材料の偽装は、悪質で何を食べさせられるか分からない消費者のことをまるで無視をした行為である。

2. 気候変動や環境問題

インドネシアで開かれていた気候変動枠組み条約第十三回締約国会議（ＣＯＰ13）は十五日の本会議で、二〇一三年以降の地球温暖化対策の枠組み「ポスト京都」の交渉の進め方や取り組みを盛り込んだ行程表「バリ・ロードマップ」に各国が合意し閉幕した。温暖化物質の削減数値目標は示されなかったが「気候変動に関する政府間パネル（ＩＰＣＣ）」の報告書を参照することとなった。

COP13 では、地球の気候が、人間の活動により明にかに温暖化の方向に向かっているということを世界中が始めて認めた最初の会議となった。

今年の IPCC 報告の最大の成果は、地球温暖化の原因を人類の産業活動によるものと明確に認定したことである。地球の平均気温が２～３度上昇するだけで、世界的に悪影響が広がるということも予測した。

洪水や干魃（かんばつ)、砂漠化、食糧不足といった温暖化による気候変動の犠牲になるのは、バングラデシュのような貧しい途上国が先である。しかし、日本でもすでに起きている異常気象の影響で、穀物の値段が上がり始めている。また、石油の高騰など温暖化対策に関係のあるものは、今後大幅な価格変動が予想される。

異常気象の影響では、06 年に麦の大生産地オーストラリアが歴史的干ばつで、小麦・大麦の生産量が前年の６割減った。世界の穀物在庫率は２００６年末に１６．３％と、国連食糧農業機関（ＦＡＯ）が示す安全在庫水準（１７−１８％）を下回った。米農務省の予測によると、０７年末は前年末比１．３ポイント減の１５．０％とさらに落ち込み、２年連続で安全在庫水準を下回る見通しである。さらに、農林水産省の国際食料問題研究会は「現在は１９７０年代の食料危機と同水準」とする報告書をまとめた。報告書によると２００７年の世界の穀物消費量は前年比２．７％増の２１億３９０万トンと過去最高の見通しになっている。同研究会は「早く手を打たねば食料事情は行き詰まる」と、警鐘を鳴らしている

3. ＪＡＭ農建機部会からの提言

アンケートの結果やアンケートに寄せられた意見を元に提言をまとめた。

ＪＡＭ農・建機部会からの提言

1、 表示偽装の氾濫は、消費者の信頼を踏みにじった行為。表記方法の改善が必要。

消費者は、食品に表示されているものを見て判断することがほとんどで、調査でも賞味期限等は、94.3%が意識している。産地表示も国産、輸入で 79.2%が意識している。原産国に対しても 75.9%が意識している。こうした背景から、表示に対する信頼は、今まで非常に高かった。調査では、85.7%が信頼していると回答していた。しかし、相次ぐ消費期限の改ざんや使用食材の偽装が発覚し、消費者の信頼を根底から崩す加工食品業界の姿が明らかになった。

食品の表示は、購買時の大切な指標でありその表記の仕方についての改善が必要である。

具体的には、①　消費期限等の根拠を明確に標準化すること。

②　文字を分かりやすく見やすい場所に大きく表示すること。

③　食品添加物など化学薬品のような名称のものについては、いつでもその添加物がどのようなものであるか、誰でも知ることが出来るように、スーパーなどに掲示すること。

2、 食料の海外への依存体質に不安をもつ消費者の姿。食料の国内確保を求める。

食品の安全性に対しては、81.8%が不安であると感じている。特に、輸入食品に対しては、86.8%が不安であるとしている。その背景は、海外の生産方法に対する不安から来ている。残留農薬に対しては、88%が不安を抱いている。特に、農薬使用の基準の遵守への不安が 38.9%、残留農薬の検査が不十分とするのが 37.3%と管理の不十分さをあげている。

不安を解消するために出来るだけ国産品を購入しているという意見もあり、国産に対する信頼と購入意欲は高い。国産品の充実と購入しやすい政策の実現が急務である。

具体的には、①　海外依存からの脱却と将来の食糧不足に備えて国家プロジェクトとして食料の確

保は必須であり海外の生産量に左右されない体制を作る。

② 主要先進国並みの食料自給率の水準に向け早期達成を目指す。

3、国産復活への期待と信頼の維持。

国産に対する信頼は、依然高い。国産と輸入を意識しているのは、79.2%と高いことからも分かる。見える食品が重要であり、問題になった加工食品は、全て生産現場が消費者から見えないところで起きている。食料の生産は、生活圏と密接に関係しその風土と共に発展してきた歴史もあり、消費者に見えることが最も大事である。

地産地消を原点として、国民全体で支える体制作りが必要である。

具体的には、① 国内の土地利用を含めた生産能力の改善で食料自給率を向上させる。

② 流通コストなど販売経費の削減を図る。

③ 担い手の育成と農業従事者の高齢化対策の省力化の推進を進める。

④ 傾斜地や中山間地域の地形を生かした農地利用作物の開発を行う。

4、環境に対する取り組みと食育の普及が急務。

消費期限等の表示に消費者が従ってしまうのは、食品に対する判断能力を衰退させるとも考えられる。口に入れても大丈夫なのかは、最終的に自己判断でありその能力を身に付けなければならない。同時に、食料に対する入手の難しさや感謝の気持ちも薄れている。いつでも何でも手に入る季節感のなさが異常であることをすでに忘れている。

こうしたことが、間接的に環境に対する負荷を増大させ輸入食材の増加に繋がっている。

食育について知っていたのは、43%であった。内容も含めて知らなかったのは、57%と知らないが上回った。関心については、65.3%があると答えている。関心がある理由では、食生活の乱れが 26%、子どもの心身の健康が 24%、生活習慣病が 20%となっている。食生活に対する問題意識の高さが窺える。感謝の心 7%、食品の安全７%、輸入依存への問題 8%、廃棄物や自然との調和など環境問題が９%と一定の割合あった。

関心は高いが、食育についての情報や理解度がまだ低く実際の行動に結びついていない。活動をしているのは、33%に留まった。

食料の自給率の向上や世界的な食料不足に対応するには、適切な情報提供が必要でありその啓発活動は、欠かせない。また、食料の大量廃棄や輸入によるエネルギーの消費など環境負荷の大きさも情報として提供する必要がある。

具体的には、① 輸入食料が消費するエネルギーや水を公表し節約する動機付けとする。

② 食物の廃棄に対して処理にかかる費用負担を求め全体として廃棄量の削減を行う。

③ 食物の循環を促進し有機肥料として活用するために消費地と生産地の循環ルートを整備する。

④ 環境に対する効果と調和を理解するための体験の機会を作り、広く食育の普及を行う。

食のアンケート調査報告第１部

ＪＡＭ農建機部会

1. 調査概要　調査時期 2007 年 5 月～6 月

(1) 回答者の状況

① 回答状況

配布数　5000　　回答数　1868　　回収率　37.36%

② 年齢

10 代 0.1%、20 代 7.9%、30 代 41.8%、40 代 29.2%、50 台 18.7%、60 代 1.7%

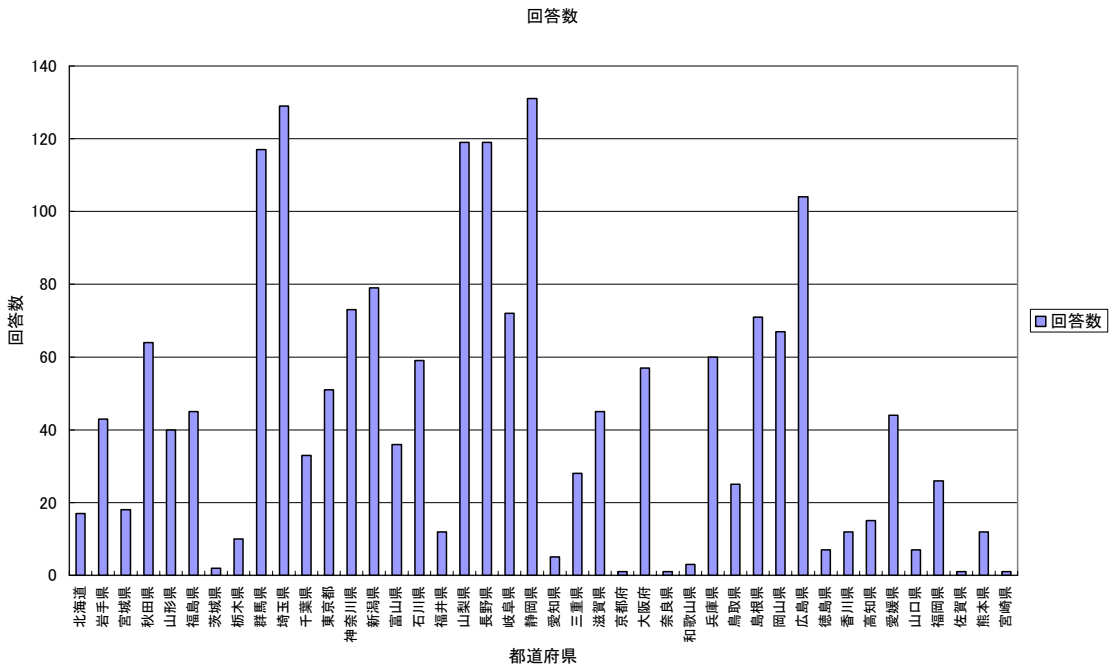
③ 性別

女性 56.2%、男性 43.36%

④ 婚姻状況

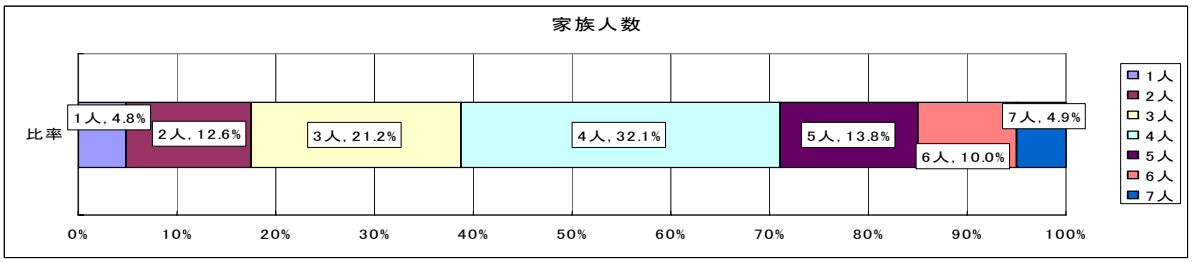
既婚 81.9%、未婚 17.6%

⑤ 居住地域別回答数



⑥ 家族人数

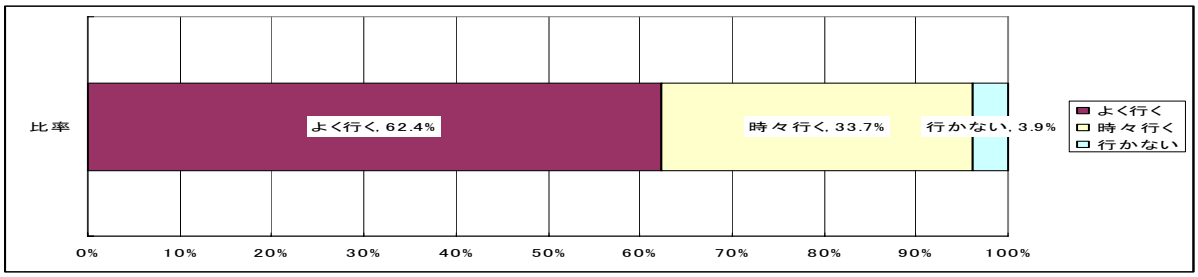
4 人家族が 32.1%で最も多く、3 人 21.2%、5 人 13.8%、2 人 12.5%の順となった。6 人以上も 14.9%あった。



(2) 単純集計結果

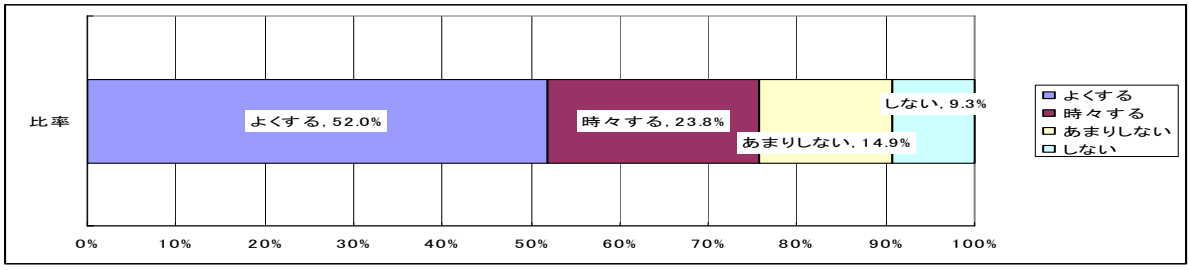
① 食品の買い物の状況

アンケート回答者の良く行くと時々行くを、あわせて 96.1%が買い物をする機会がある



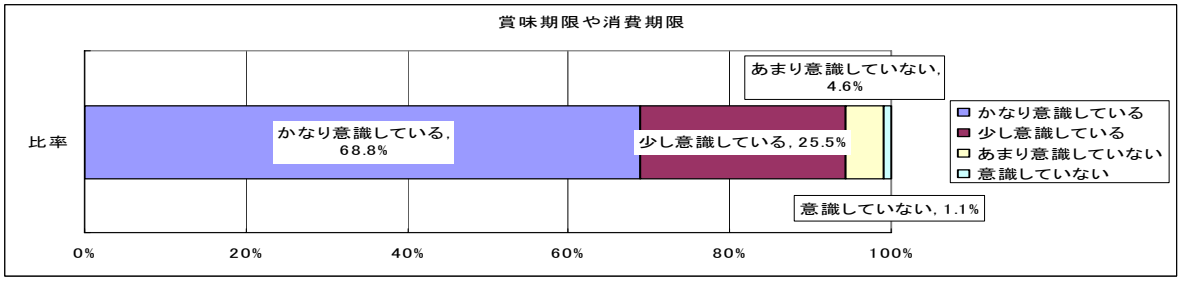
② 家庭での料理の状況

良くすると時々するを、合わせて 75.8%が料理をする機会がある

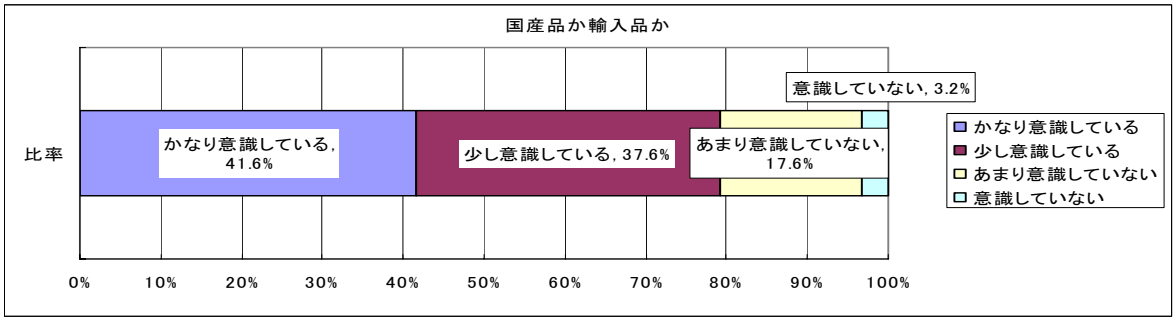


③ 食品を購入するときの状況

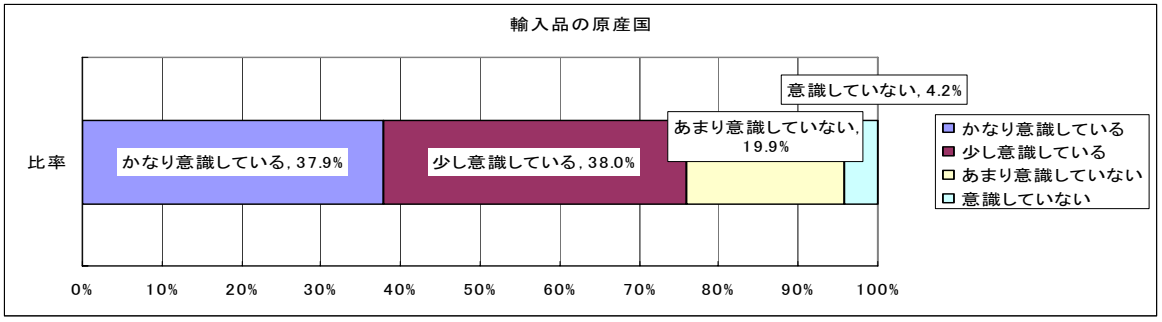
3-1 賞味期限と消費期限を意識しているのは、68.8%で「かなり意識している」。25.5%で「少し意識している」となった。意識していないも 5.7%ある。



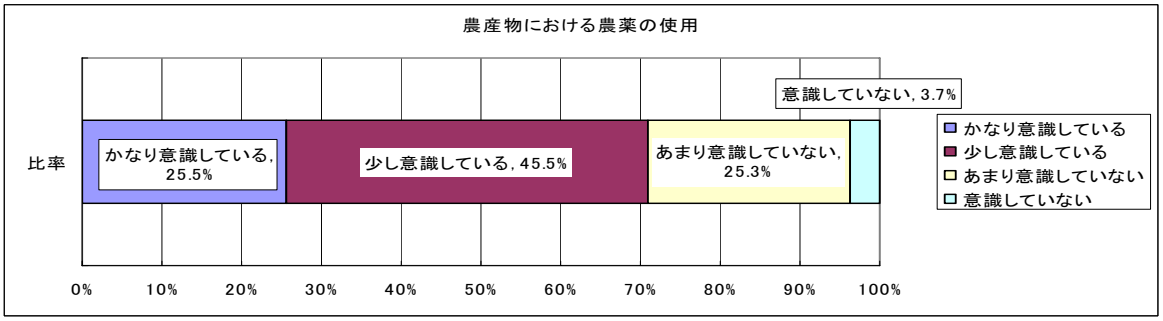
3-2　国産品か輸入品を意識しているのは、「かなり意識している」41.6%、「少し意識している」37.6%で購入時に意識している割合が高い。意識していない人も 2 割程度いる。



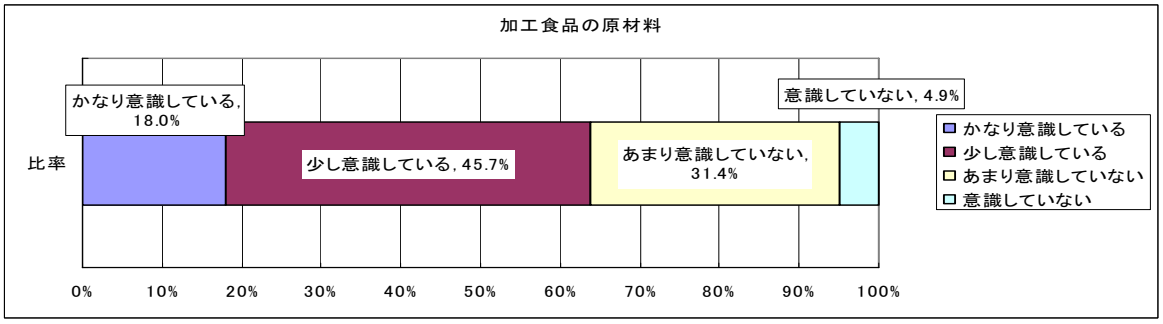
3-3　輸入品の原産国を意識しているのは、「かなり意識している」37.9%、「少し意識している」38%で購入時に意識している割合が高い。意識していない人も 2 割強程度いる。



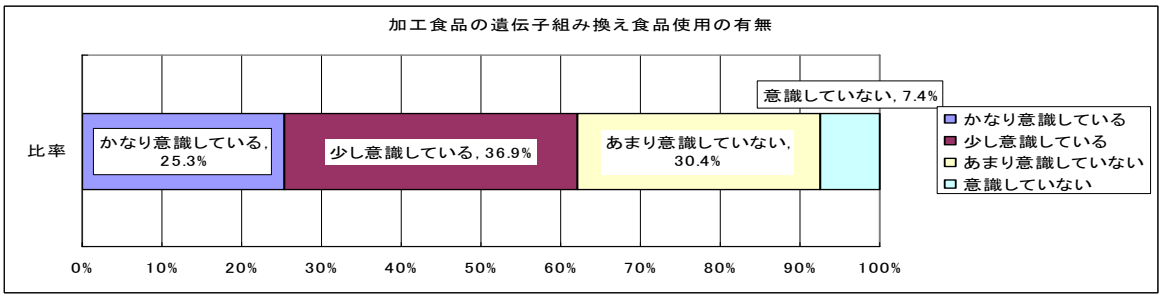
3-4　農産物（野菜・果物など）における農薬の使用を意識しているのは、「かなり意識している」25.5%、「少し意識している」45.5%となった。「あまり意識していない」「意識していない」は、29%あった。気にはなるがある程度は、許容の範囲と捉えられている。



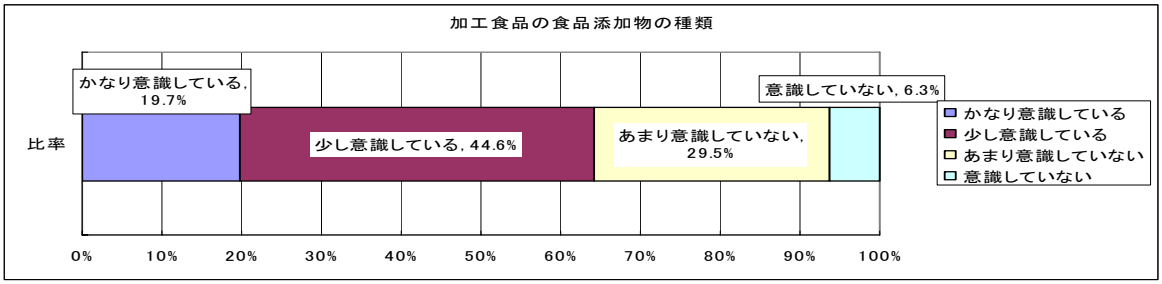
3-5　加工食品の原材料に対して意識しているのは、「かなり意識している」18%、「少し意識している」45.7%となった。「あまり意識していない」31.4%、「意識していない」4.9%と6割が意識しているが4割弱は気にしていない。



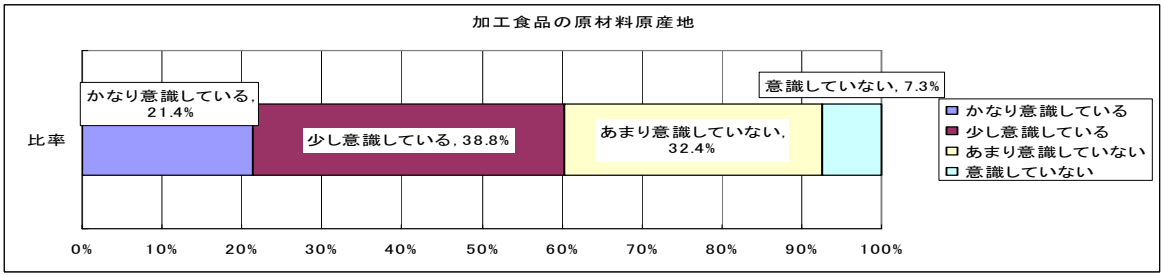
3-6　加工食品の遺伝子組み換え食品使用の有無に対して意識しているのは、「かなり意識している」25.3%、「少し意識している」36.9%となった。「あまり意識していない」30.4%、「意識していない」7.4%と6割が意識しているが4割弱は気にしていない。



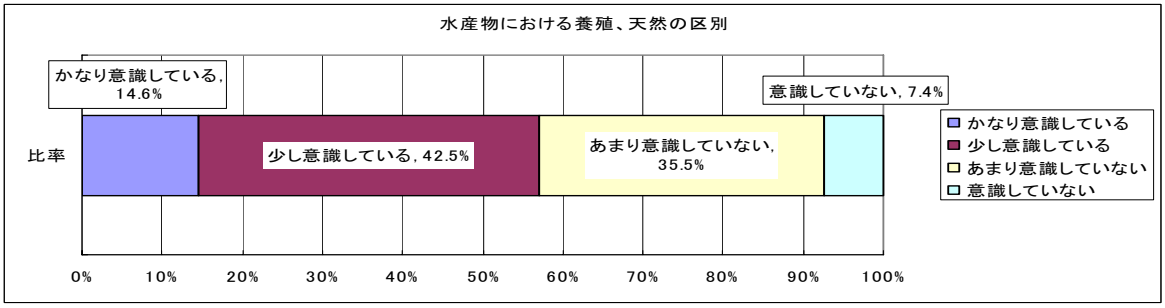
3-7　加工食品の食品添加物の種類に対して意識しているのは、「かなり意識している」19.7%、「少し意識している」44.6%となった。「あまり意識していない」29.5%、「意識していない」6.3%と6割が意識しているが4割弱は気にしていない。



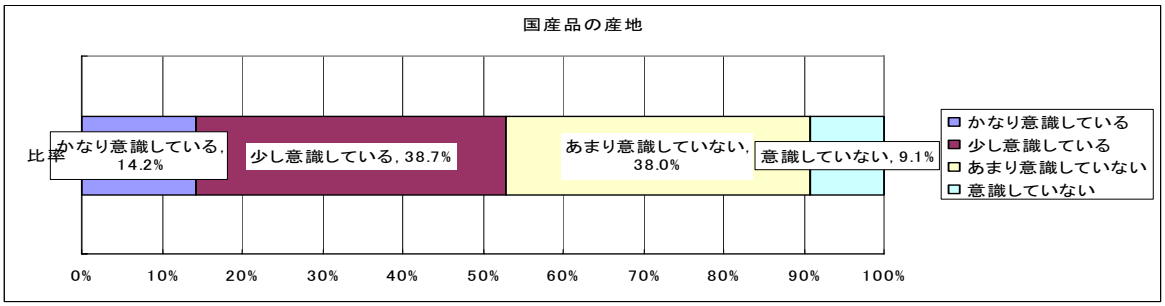
3-8　加工食品の原料原産地に対して意識しているのは、「かなり意識している」21.4%、「少し意識している」38.8%となった。「あまり意識していない」32.4%、「意識していない」7.3%と6割が意識しているが4割弱は気にしていない。



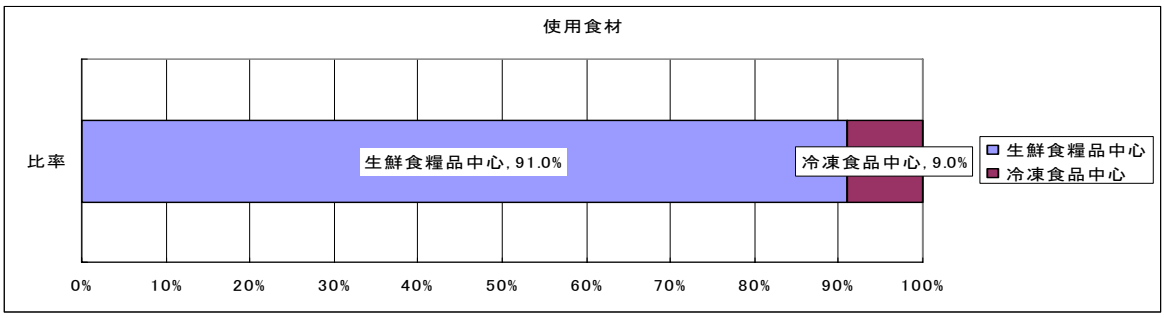
3-9　水産物（魚介類や海藻類など）における養殖、天然の区別に対して意識しているのは、「かなり意識している」14.6%、「少し意識している」42.5%となった。「あまり意識していない」35.5%、「意識していない」7.4%と意識している割合が少し大きい程度で割りと意識していない。



3-10　国産品の産地に対して意識しているのは、「かなり意識している」14.2%、「少し意識している」38.7%となった。「あまり意識していない」38%、「意識していない」9.1%となった。「かなり意識している」が「意識していない」を上回っている。

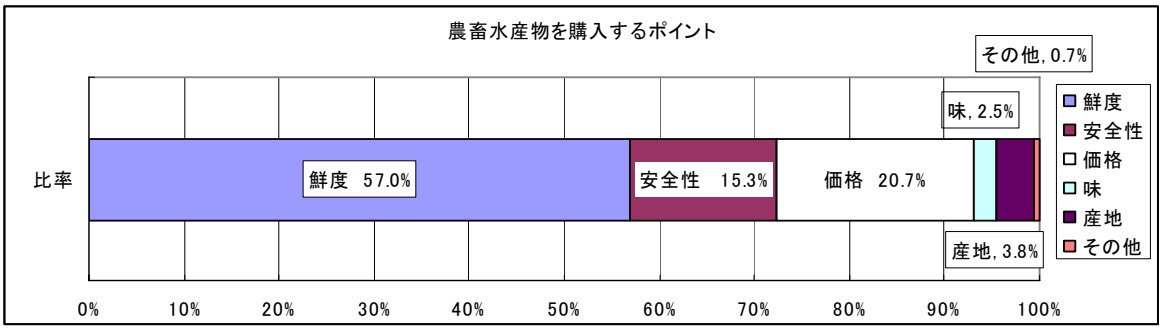


3-11　使用食材については、「生鮮食料品中心」が91%となった。



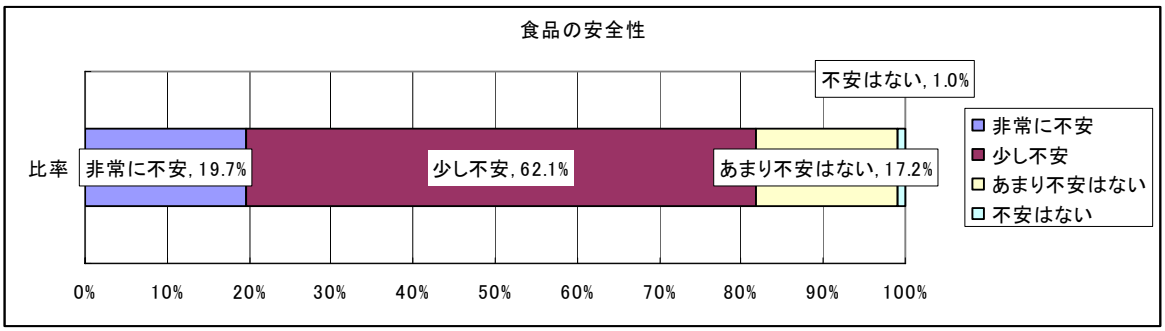
④ 購入するときのポイント

鮮度 57%、価格 20.7%、安全性 15.3%、産地 3.8%、味 2.5%の順となった。鮮度と安全性は、類似する要素もあり関心が高い。2 割が「価格」を購入基準としている。



⑤ 食品の安全性

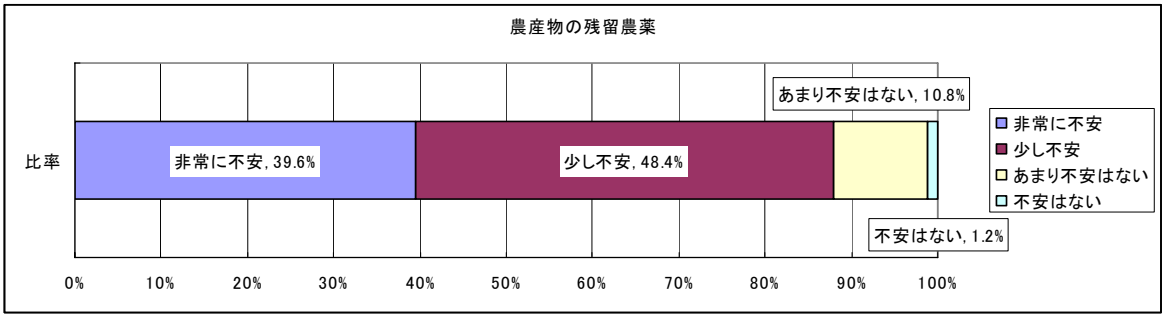
「非常に不安」19.7%、「少し不安」62.1%と 8 割以上が不安を感じている。「あまり不安はない」17.2%、「不安はない」1%となった。



⑥ 安全性に対しての意識

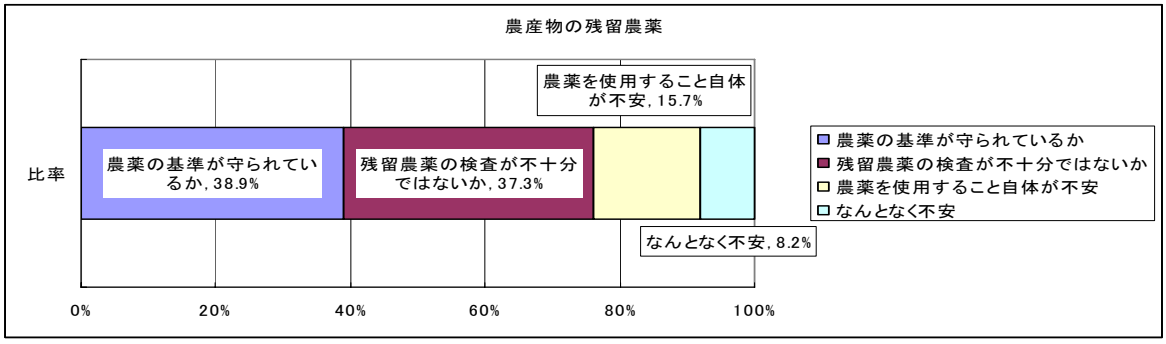
6-1　農産物の残留農薬

不安に感じているのは、88%と高い。



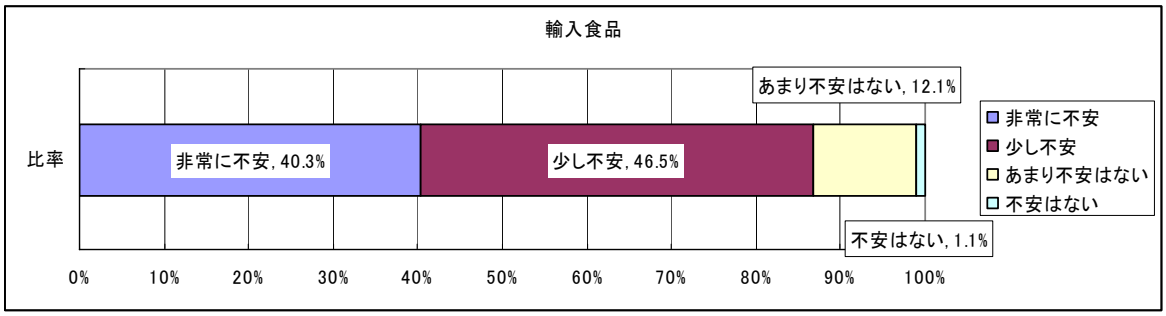
不安を感じている中で、どのようなことに不安を感じているかでは、基準の遵守や検査体制に対す

るものが、76.2%となった。農薬の使用そのものに不安を感じているのは、15.7%ある。

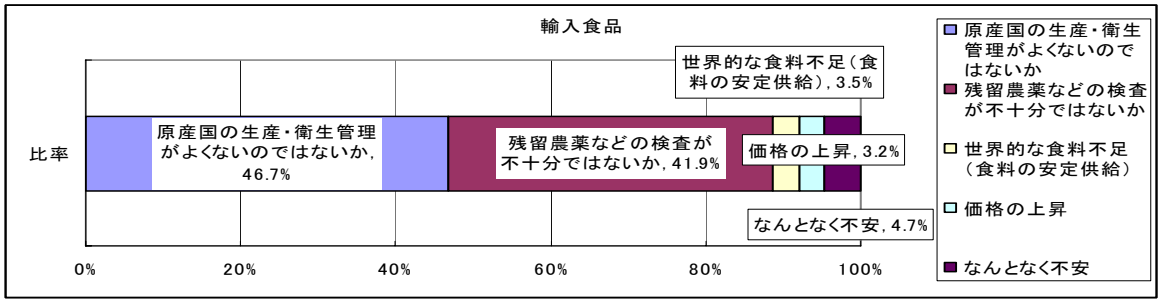


6-2 輸入食品

輸入食品に不安を感じている人は、86.8%となった。

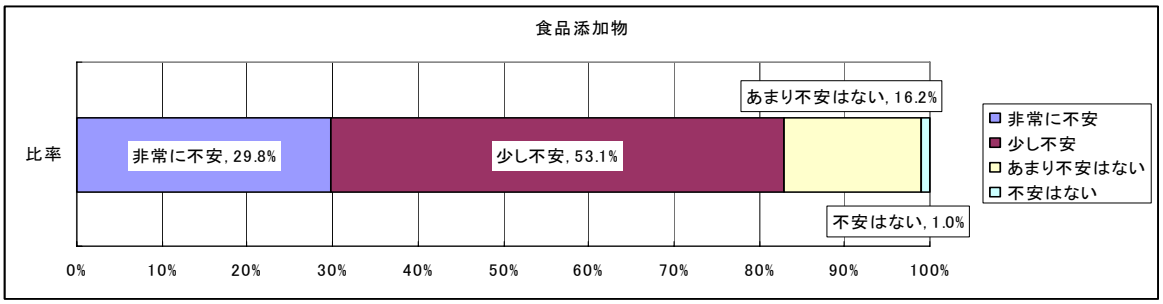


不安を感じている中で、どのようなことに不安を感じているかでは、衛生管理 46.7%や残留農薬の検査 37.3%と大きく管理体制に対する不安が大きい。食糧不足 3.5%や価格上昇 3.2%はあまり心配をしていない。



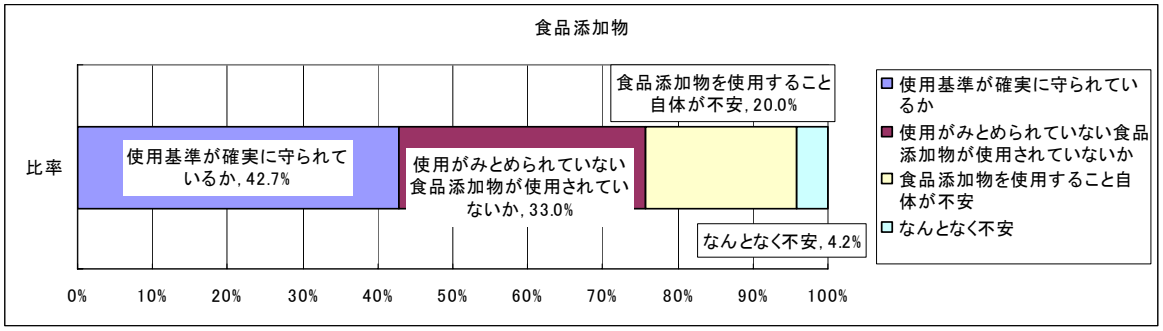
6-3　食品添加物

食品添加物に不安を感じている人は、82.3%となった。



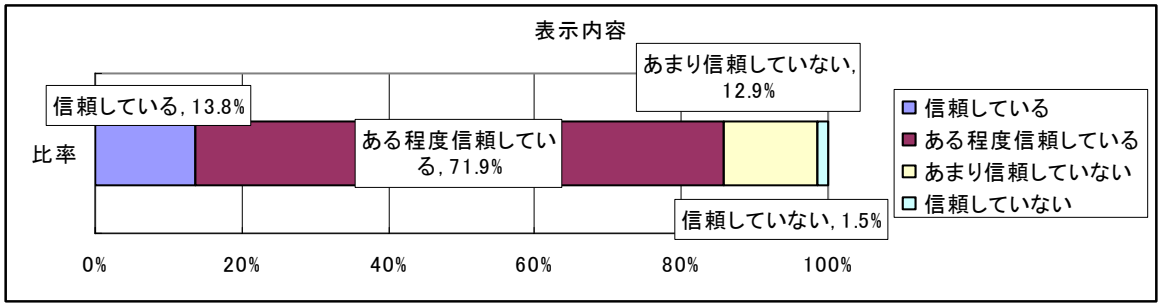
不安を感じている中で、どのようなことに不安を感じているかでは、使用基準 42.7%や使用禁止になっている添加物の使用 33%と食品会社のモラルに対する不安が大きい。食品添加物に否定的な人

も 20%あった。



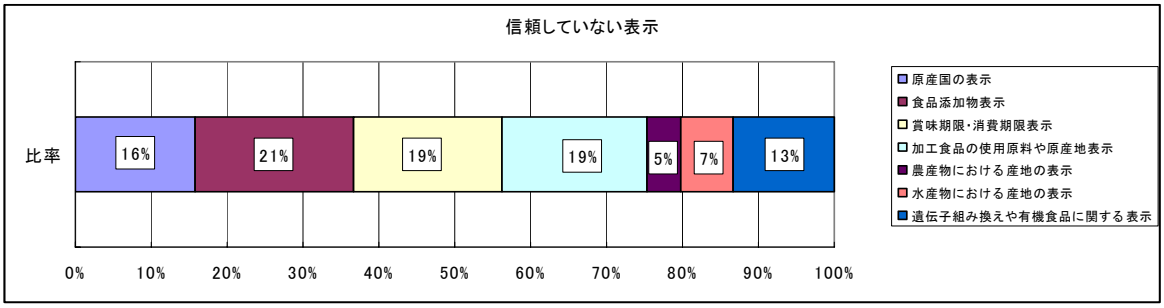
⑦ 表示に対する意識

表示に対して信頼しているのは、85.7%であった。信頼していないも、14.4%あった。多くの人は、表示に対しては、信頼している。



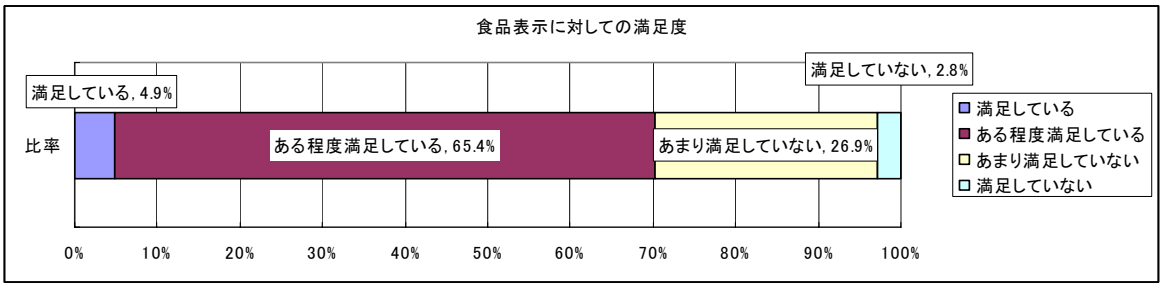
信頼していない表示

信頼していない表示は、食品添加物表示 21%、賞味・消費期限 19%、加工食品の原材料や原産地 19%、原産国の表示 16%と高い。遺伝子組み換えも 13%ある。農産物の産地 5%、水産物の産地表示 7%と国内産の表示と思われる表示に対しては低い。

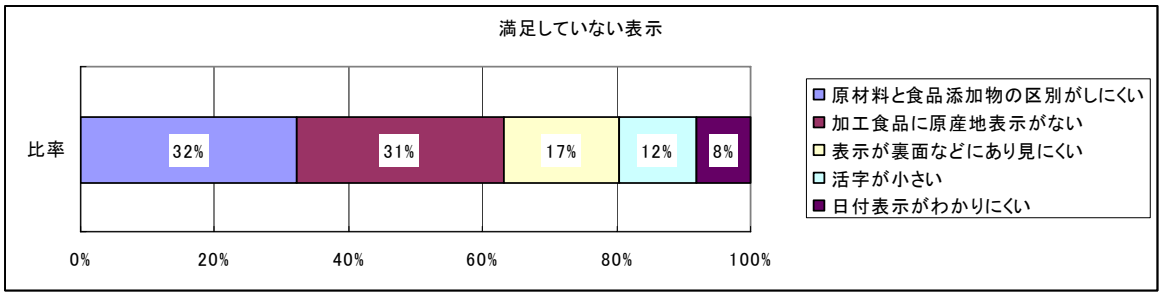


食品表示に対しての満足度

満足している 4.9%と低い。ある程度満足 65.4%と最も多く、あまり満足していない 26.9%が続いている。

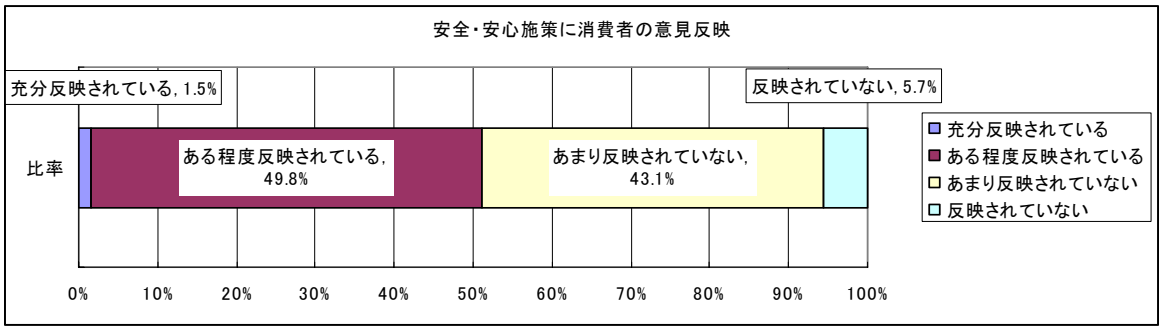


満足していない表示は、原材料と食品添加物の区別がしにくい32%、加工食品に原産地表示がない31%と並んでいる。表示の見にくさが合わせて29%となった。



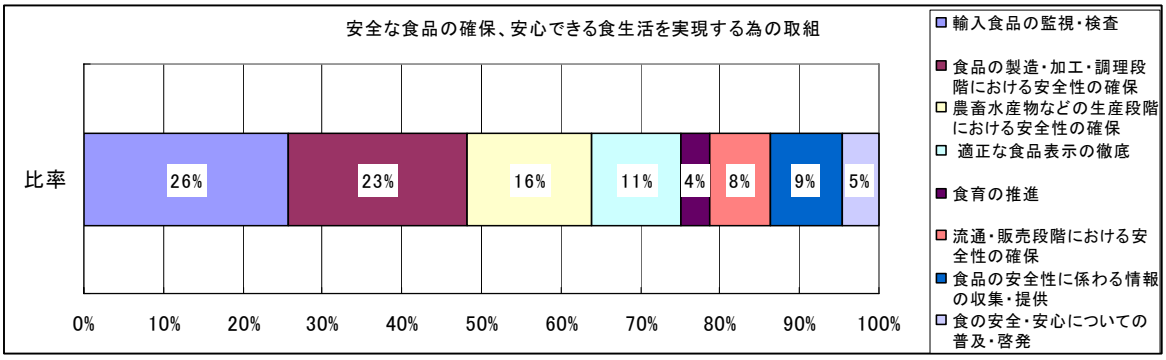
⑧ 安全・安心に対する意見反映について

反映されていると感じているのが51.3%、反映されていないと感じているのが48.3%と同じ位になった。充分反映されている1.5%よりも反映されていない5.7%が上回っている。



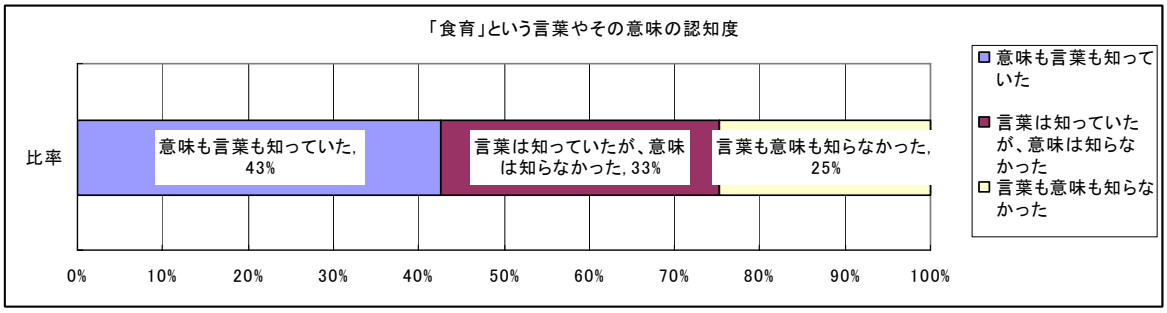
⑨ 安全・安心に対しての取り組み

輸入食品の監視・検査26%、食品の製造・加工・調理段階における安全性の確保23%が高く加工食品に対する取り組みを望んでいる割合が多い。農畜水産物などの生産段階における安全性の確保16%、適正な食品表示の徹底11%ある。



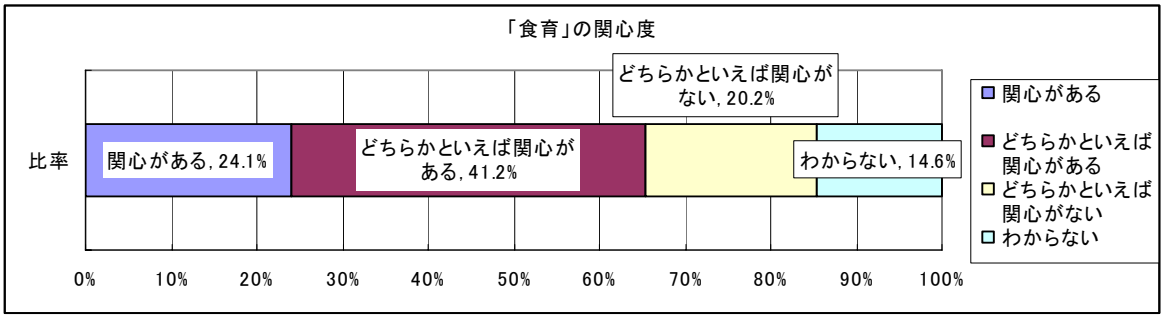
⑩ 食育の認知度

意味も言葉も知っていた 43%、言葉は知っていたが、意味は知らなかった 33%、言葉も意味も知らなかった 25%となった。言葉を知っていたのは、76%で認知度は高い。



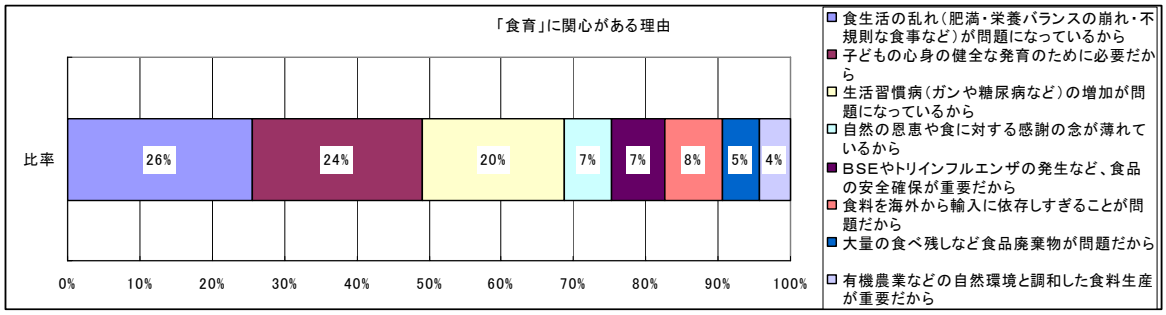
⑪ 食育の関心度

何らかの関心がある人は、65.3%あった。関心が無いは 20.2%となった。



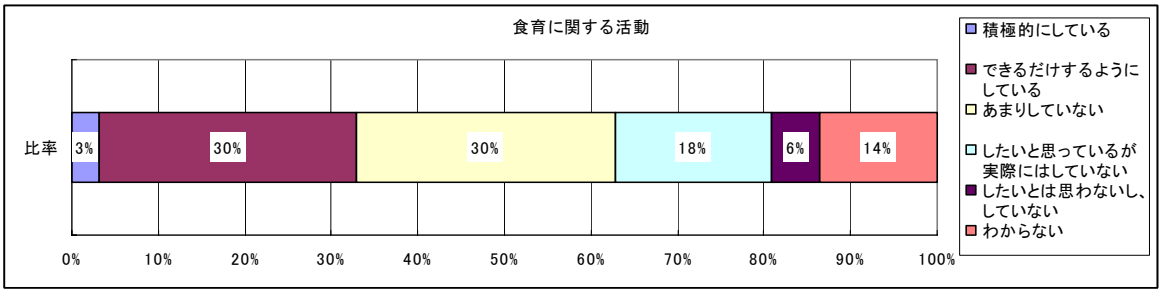
「食育」に関心がある理由

食生活の乱れ（肥満・栄養バランスの崩れ・不規則な食事など）が問題になっているから 26%、子どもの心身の健全な発育のために必要だから 24%、生活習慣病（ガンや糖尿病など）の増加が問題になっているから 20%と高く体に対しての影響に関係していると見ている割合が高い。環境や食料問題に対しては、関心が低い。



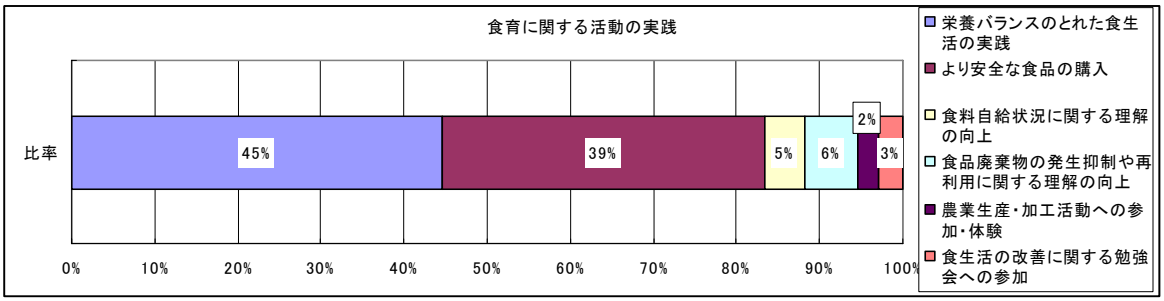
⑫ 食育に対しての活動

できるだけするようにしている 30%、あまりしていない 30%と同じ割合で高い。したいと思っているが実際にはしていない 18%となった。



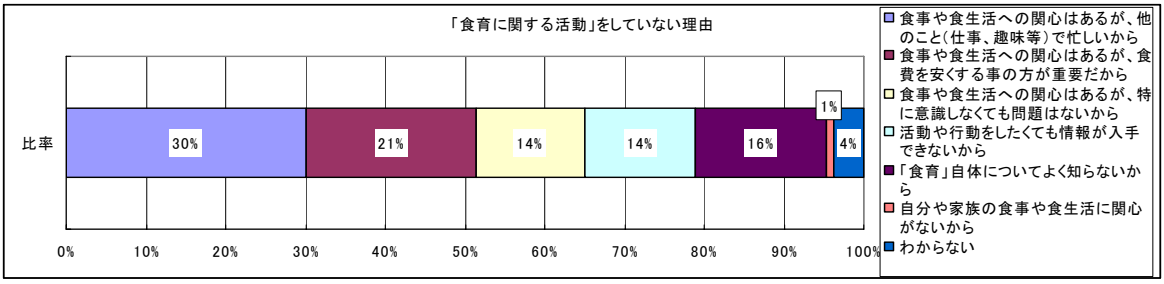
食育に関する活動の実践

行動している人の活動内容は、栄養バランスのとれた食生活の実践45%、より安全な食品の購入39%と高くなっている。



「食育に関する活動」をしていない理由

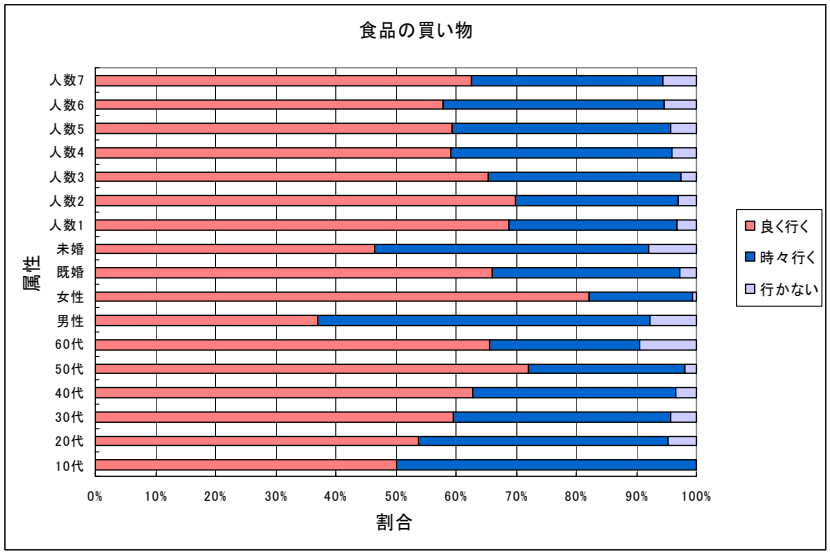
食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから30%と高く特別な活動を意識している様子がうかがえる。食事や食生活への関心はあるが、食費を安くする事の方が重要だから21%も高い。「食育」自体についてよく知らない16%あった。問題が無い14%、情報が無い14%となった。



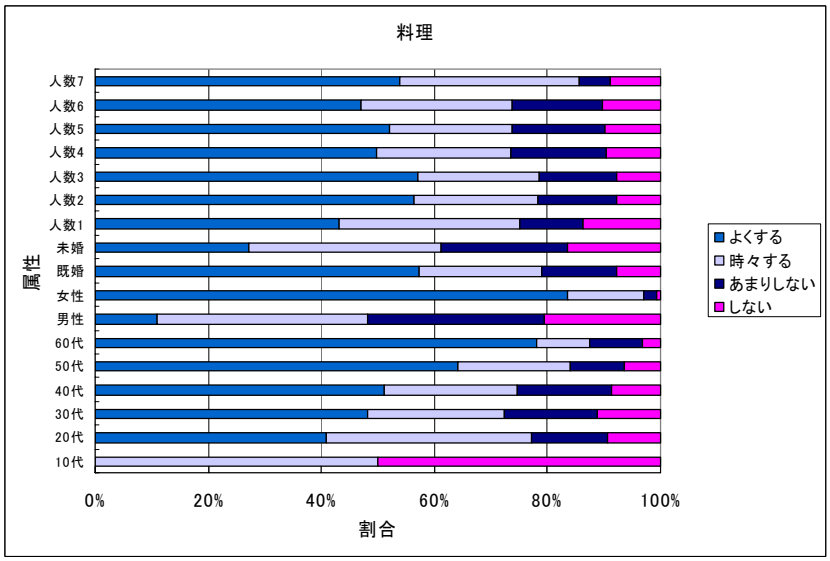
2. 食の安全・安心に対しての特徴

（1）回答者の状況

①アンケート調査では、家族の中で買い物に良く行く人を回答者として選んでもらった。したがって、「良く行く」62.4%、「時々行く」33.7%と回答者のほとんどが普段から買い物を行っていることを前提としている。性別では、良く行くと時々行く、を足すと女性の 99.3%になった回答した女性のほとんどが普段から食品の買い物をしている。

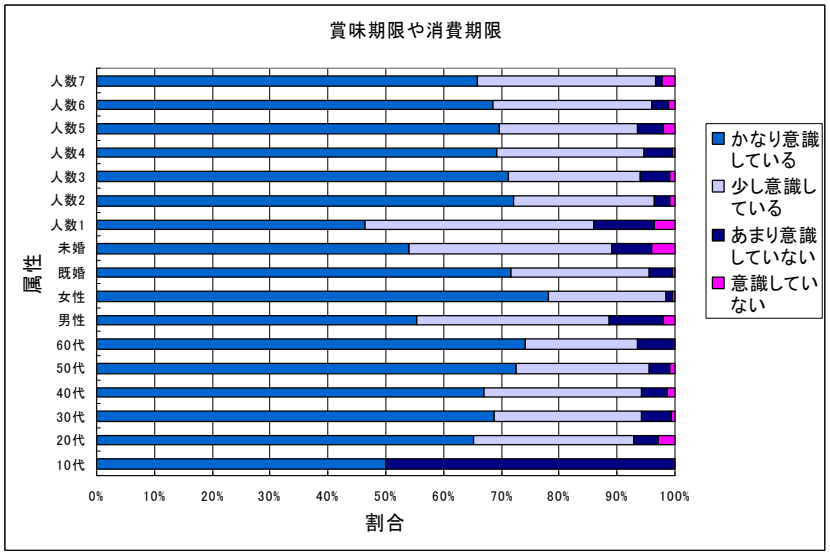


②家庭で料理をしているのは、「良くする」では、女性 83.5%、60 代 78.1%、50 代 64.2%、3 人家族 57.1%が上位になった。「しない」では、男性 20.6%、未婚 16.5%、1 人暮らし 13.6%の順となった。

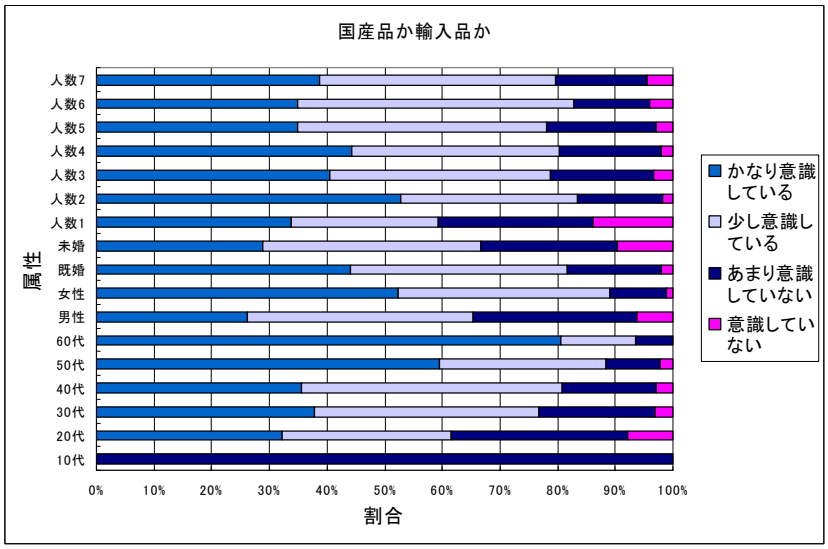


（2）食品を購入するときの安全安心に対する意識

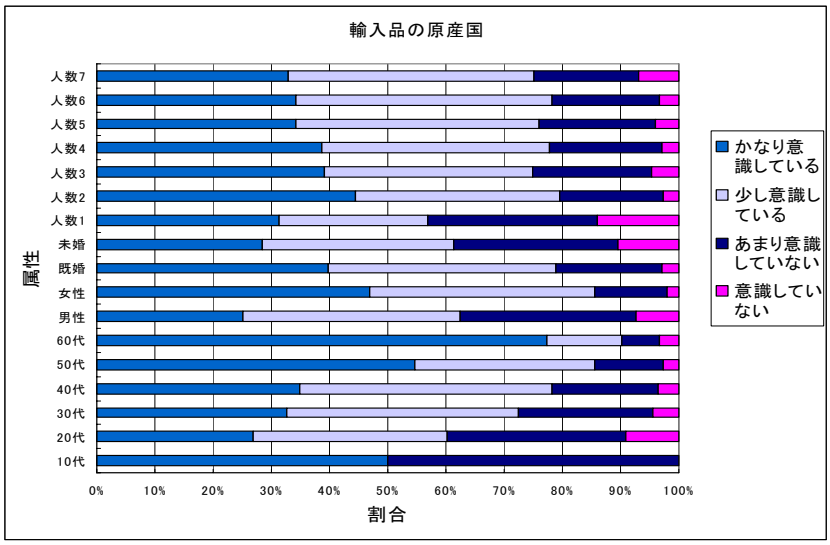
①賞味期限や消費期限に対して、「かなり意識している」では、女性 78.2%、60 代 74.2%、50 代 72.4%、2 人家族 72%、3 人家族 71.1%の順となった。「意識していない」では、未婚４%、1 人 3.5%、20 代 2.8%、7 人家族 2.3%、男性２%、５人家族 2%の順となった。



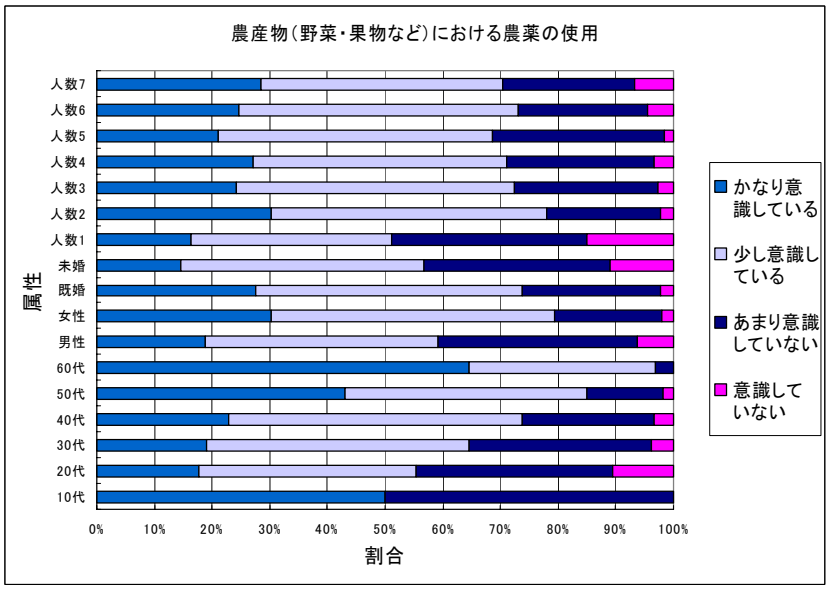
②国産と輸入品を意識しているのは、「かなり意識している」では、60 代 80.6%、50 代 59.5%、2 人家族 52.9%、女性 52.4%となった。「意識していない」1 人 14%、未婚 9.7%、20 代 7.9%、男性 6.2%となった。



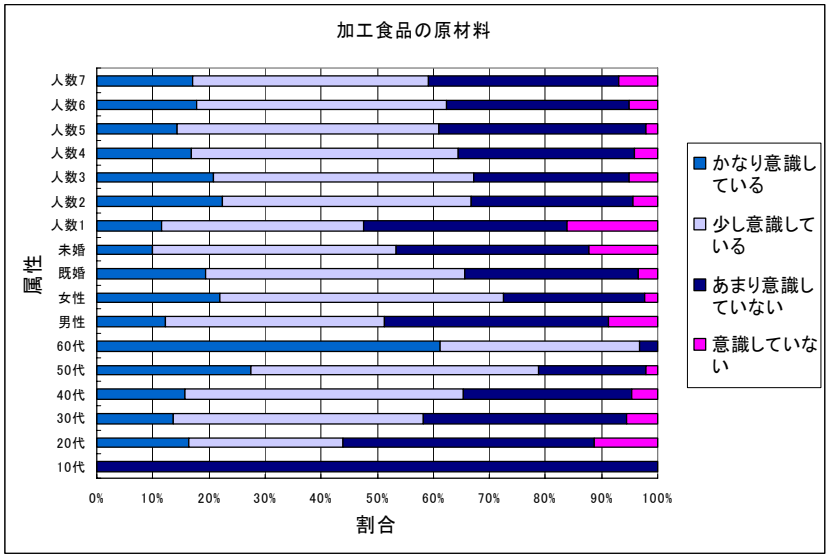
③輸入品の原産国に対して、「かなり意識している」では、60 代 77.4%、50 代 54.7%、女性 46.9%、2 人家族 44.4%の順となった。「意識していない」では、1 人 14%、未婚 10.3%、20 代 9.2%、男性 7.4%、7 人家族 6.8%の順となった。



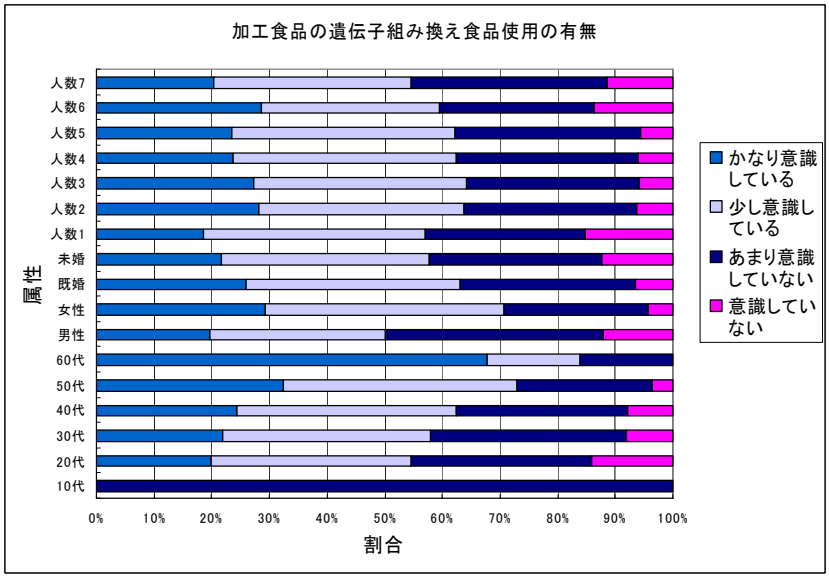
④農薬の使用に対して、「かなり意識している」では、60 代 64.5%、50 代 42.9%、女性 30.2%、2 人家族 30.4%、7 人家族、28.4%、既婚 27.5%の順となった。「意識していない」では、1 人 15.1%、未婚 11%、20 代 10.6%の順となった。



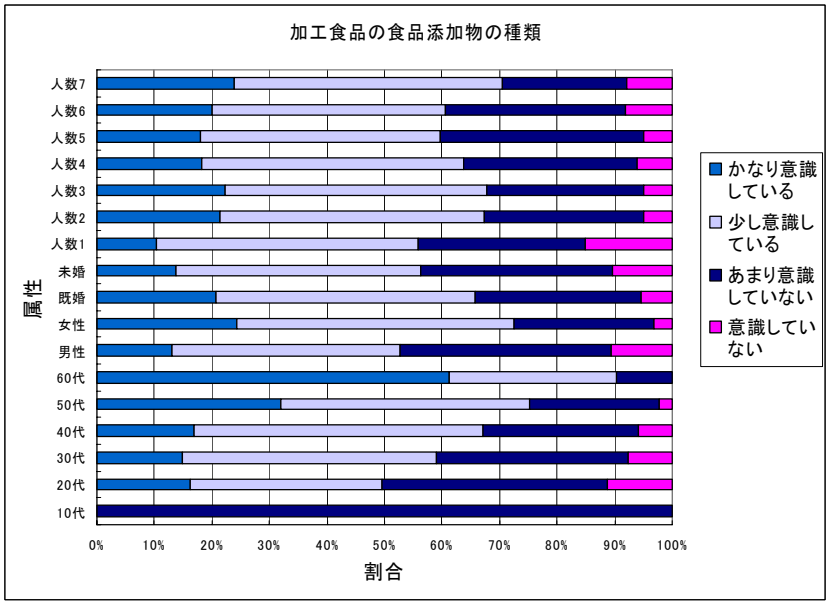
⑤加工食品の原材料に対して、「かなり意識している」では、60 代 61.3%、50 代 27.4%、2 人家族 22.4%、女性 21.8%、3 人家族 20.7%の順となった。「意識していない」では、1 人 16.3%、未婚 12.3%、20 代 11.3%、男性 8.8%、7 人家族 6.8%の順となった。



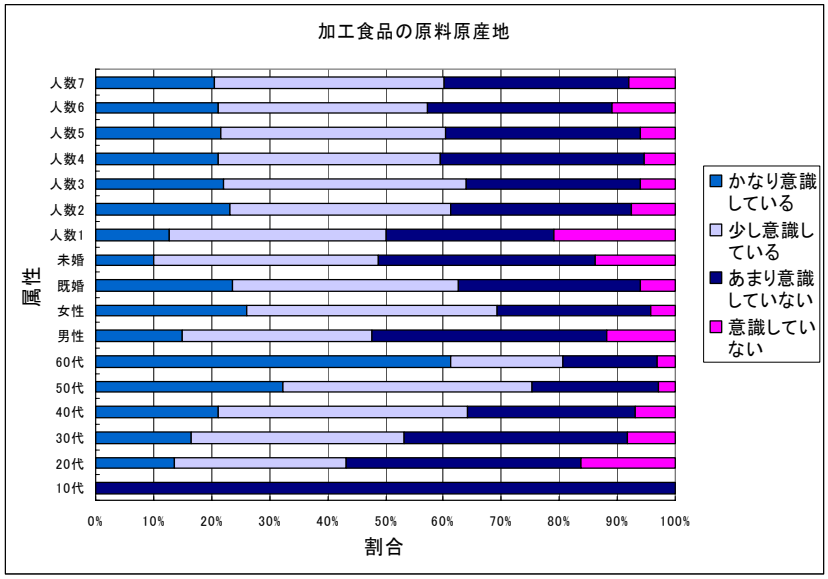
⑥遺伝子組み換え食品に対して、「かなり意識している」では、60 代 67.7%、50 代 32.4%、女性 29.3%、2 人家族 28.1%、既婚 25.9%の順になった。「意識していない」では、1 人 15.1%、6 人家族 13.7%、未婚 12.3%、男性 12%、7 人家族 11.4%の順になった。



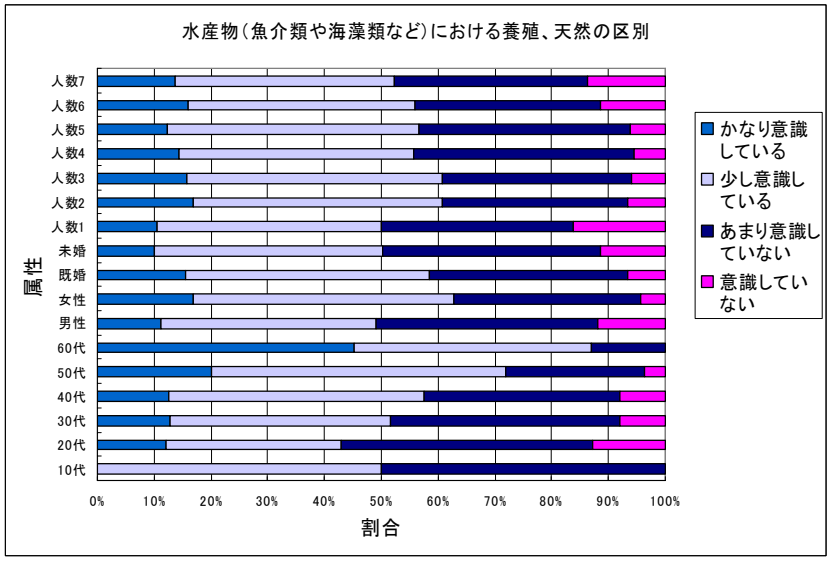
⑦食品添加物の種類に対して、「かなり意識している」では、60 代 61.3%、50 代 32.1%、女性 24.3%、7 人家族 23.9%、3 人家族 22.4%の順となった。「意識していない」では、1 人 15.1%、20 代 11.3%、男性 10.7%、未婚 10.3%の順となった。



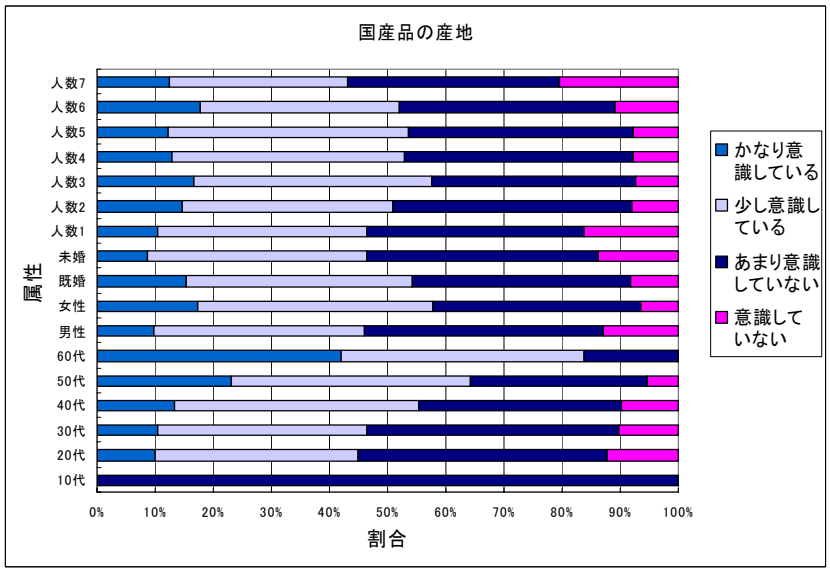
⑧加工食品の原料原産地に対して、「かなり意識している」では、60 代 61.3%、50 代 32.4%、女性 26%、既婚 23.5%、2 人家族 23.2%の順になった。「意識していない」では、1 人 20.9%、20 代 16.3%、未婚 13.7%、男性 11.9%、6 人家族 10.9%の順になった。



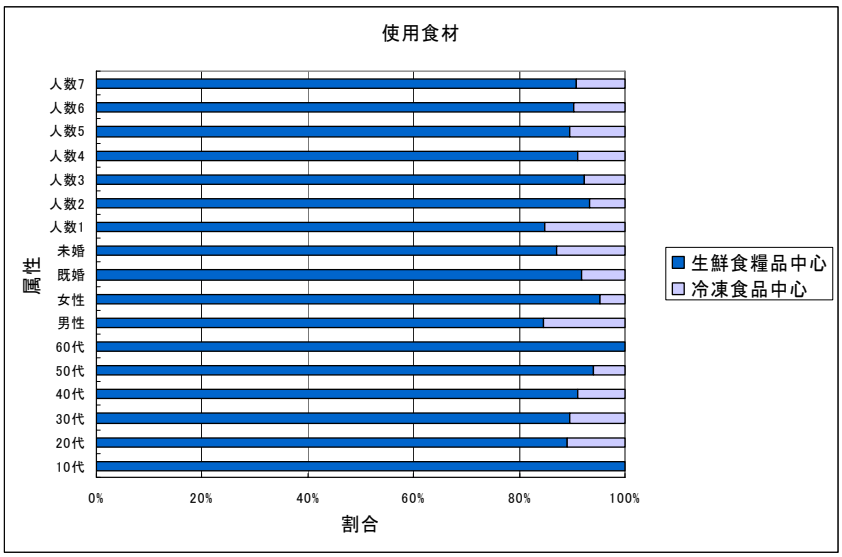
⑨水産物の養殖天然の区別に対して、「かなり意識している」では、60 代 45.2%、50 代 20.2%、2 人家族 17%、女性 17%、6 人家族 16%の順になった。「意識していない」では、1 人 16.3%、7 人家族 13.6%、20 代 12.9%、男性 11.8%、未婚 11.4%、6 人家族 11.4%の順になった。



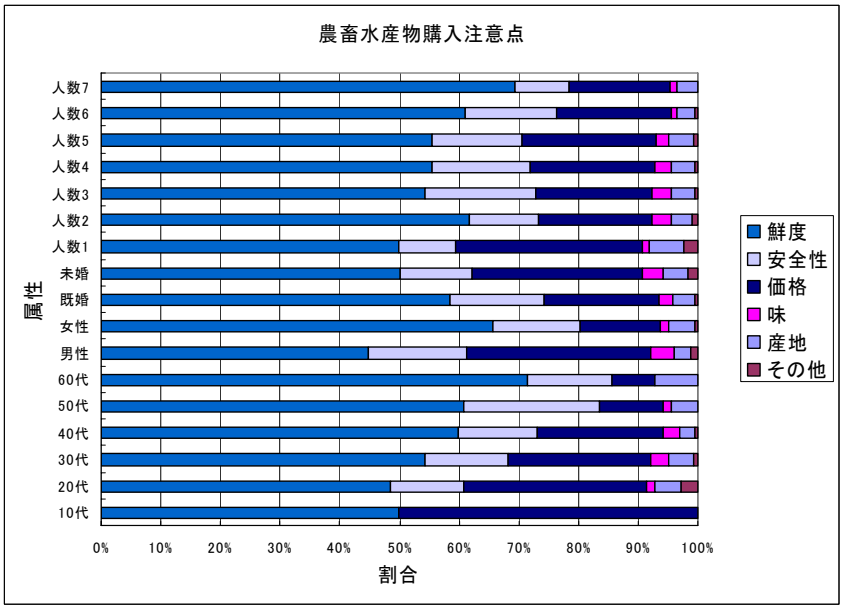
⑪国産品の産地に対して、「かなり意識している」では、60 代 41.9%、50 代 23.1%、6 人家族 17.7%、女性 17.4%、3 人家族 16.7%の順になった。「意識していない」では、7 人家族 20.5%、1 人 16.3%、未婚 13.7%、男性 12.9%、20 代 12.1%、6 人家族 10.9%、30 代 10.2%の順になった。



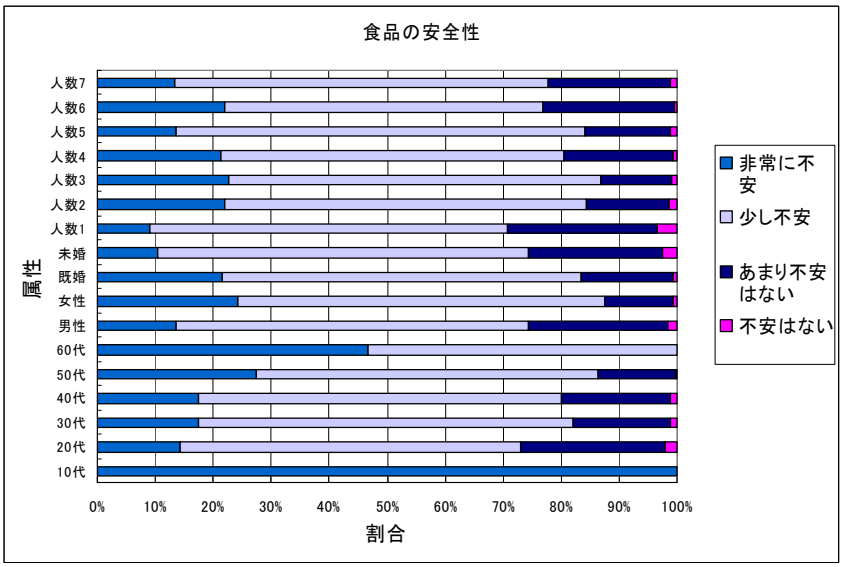
⑫使用食材別では、「生鮮食品中心」が各層別でも 80%以上となっている。中でも 60 代 100%、女性 95.4%、50 代 94%、2 人家族 93.3%と高い。「冷凍食品中心」では、男性 15.3%、1 人 15.3%、未婚 12.9%、20 代 10.9%、30 代 10.5%、5 人家族 10.5%が 10%を超えている。



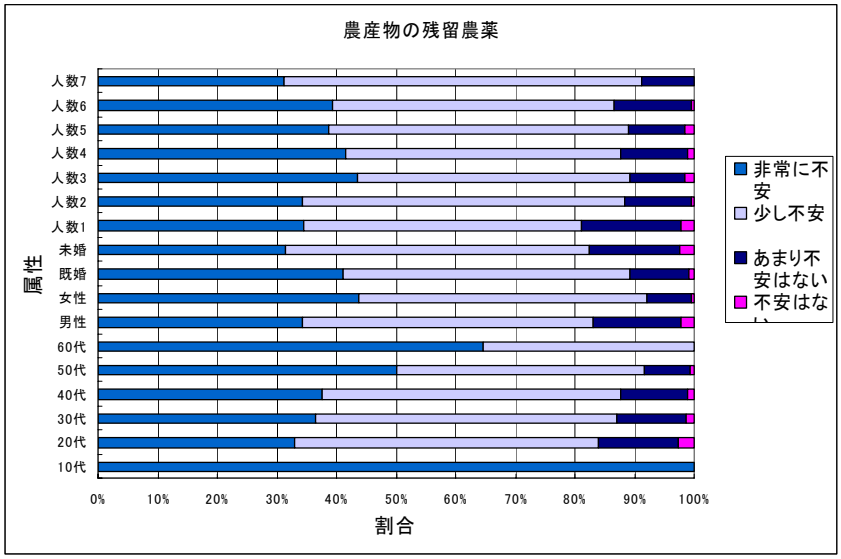
⑬購入するときの注意ポイントは、「鮮度」が各層別でも高くなっている。中でも 60 代 71.4%、7 人家族 69.3%、女性 65.6%、2 人家族 61.7%、6 人家族 61%、50 代 60.9%が 60%を超えている。「安全性」は、50 代 22.6%、3 人家族 18.5%、男性 16.4%、4 人家族 16.3%、既婚 15.9%と高い。「価格」は、1 人 31.4%、男性 30.9%、20 代 30.7%、未婚 28.4%と高い。「味」については、各層別にみても 5 %に満たないなど関心は薄い。「産地」は、60 代 7.1%、1 人 5.8%と高い。女性 4.5%と男性 2.8%のほぼ倍の関心があった。



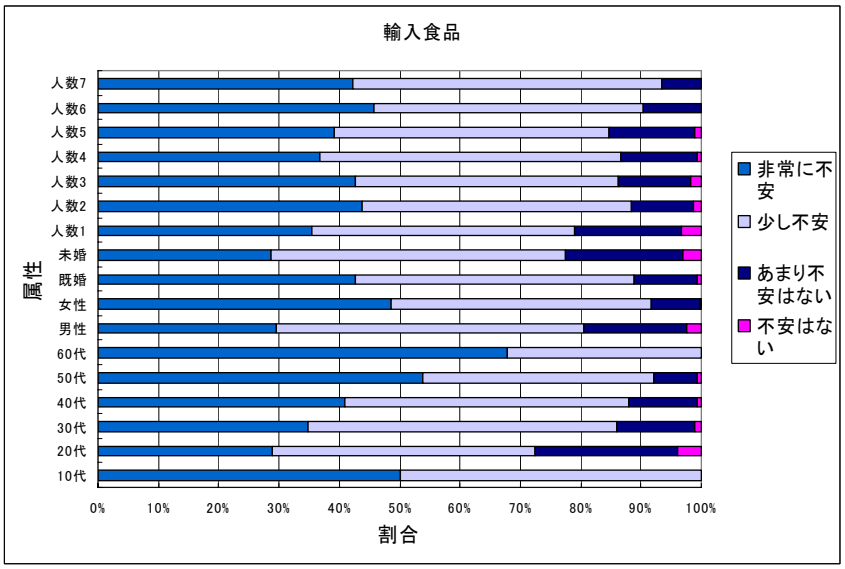
⑭食品の安全性に対しては、80%以上が何らかの不安を抱いている。「非常に不安」は、60 代 46.7%、50 代 27.5%、女性 24.3%が高い。「不安は無い」は、1 人 3.4%、未婚 2.4%、20 代 2%の順で高い。よく買い物に行く人の中で、「不安は無い」は、1 人 1.6%と半数になり、未婚 0.5%、20 代 0%にまで少なくなる。



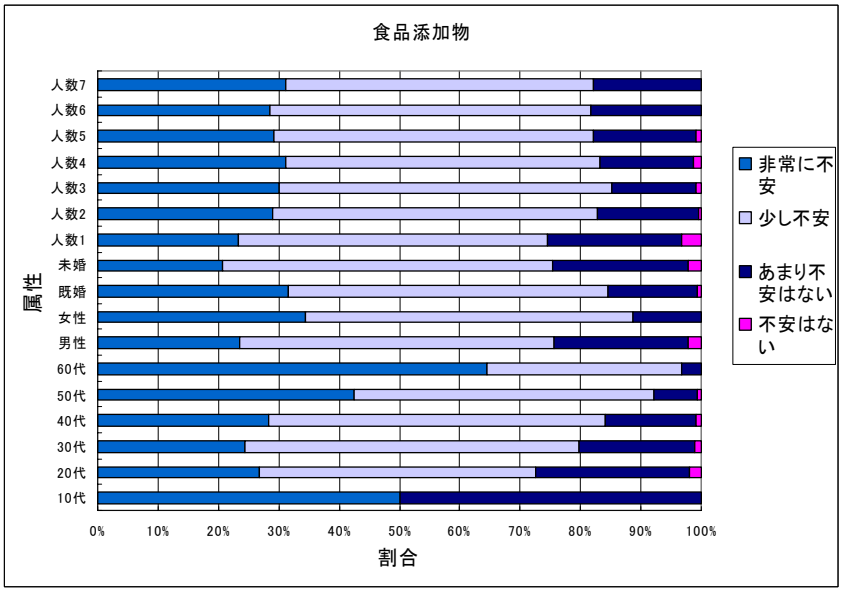
⑮農産物の残留農薬に対しては、80%以上が不安を持っている。「非常に不安」は、60 代 64.5%、50 代 50.1%、女性 43.7%、3 人家族 43.6%、4 人家族 41.5%が高い。「不安はない」は、20 代 2.7%、未婚 2.4%、1 人 2.2%、男性 2.1%の順で高い。



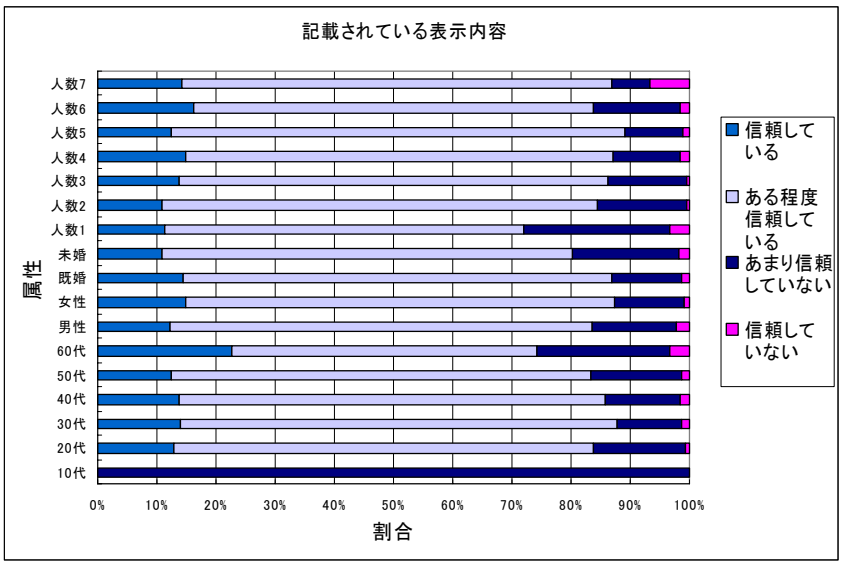
⑯輸入食品に対しては、不安を感じている割合が 9 割近い。「非常に不安」は、60 代 67.7%、50 代 53.8%、女性 48.5%、6 人家族 45.7%が高い。「不安はない」は、20 代 2%、1 人 2.2%、未婚 2.4%、男性 2.1%の順で高い。



⑰食品添加物では、「非常に不安」60 代 64.5%、50 代 42.4%、女性 34.5%、既婚 31.5%と高い。「不安はない」は、1 人 3.3%、未婚 2.1%、20 代 2%の順で高い。

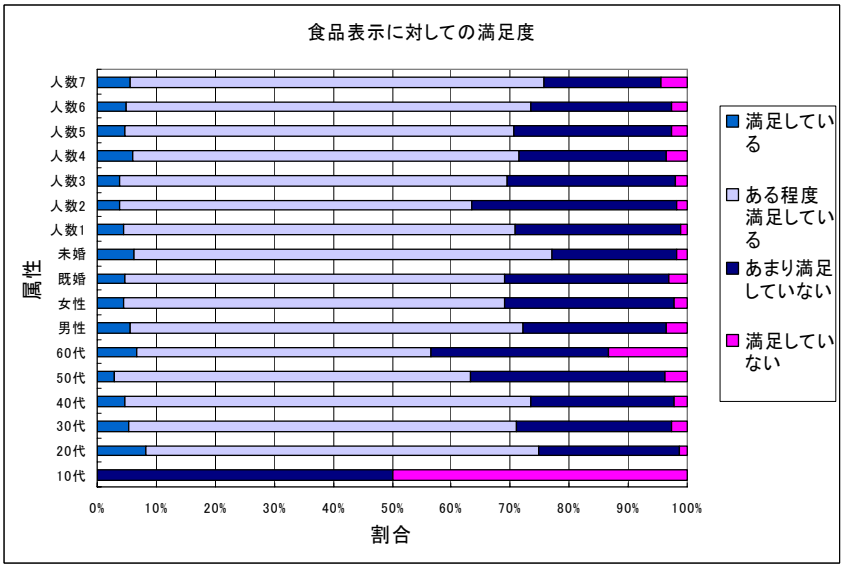


⑱食品の表示に対しては、８割以上がある程度の信頼をしている。「信頼している」は、60 代 22.6%、6 人家族 16.1%、女性 14.9%、4 人家族 14.8%、既婚 14.4%が高い。「信頼していない」は、7 人家族 6.6%、1 人 3.4%、60 代 3.2%、男性 2.2%の順で高い。



⑲表示に対しての満足度は、「満足している」20 代 8.2%、60 代 6.7%、未婚 6.2%、4 人家族 6.1%が高い。「満足していない」は、60 代 13.3%、7 人家族 4.4%、50 代 3.7%、男性 3.5%、4 人家族 3.5%の順で高い。

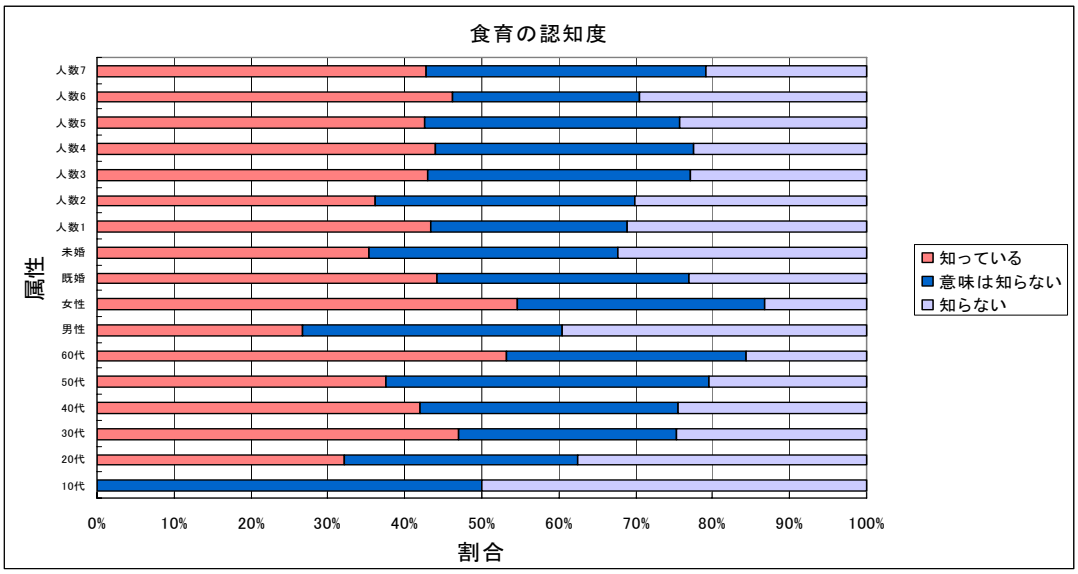
表示に対して、年齢的な傾向が出ているのは、「加工食品に原産地表示がない」は、若年ほど不満が高い。「活字が小さい」は、高年齢者ほど不満が高い。



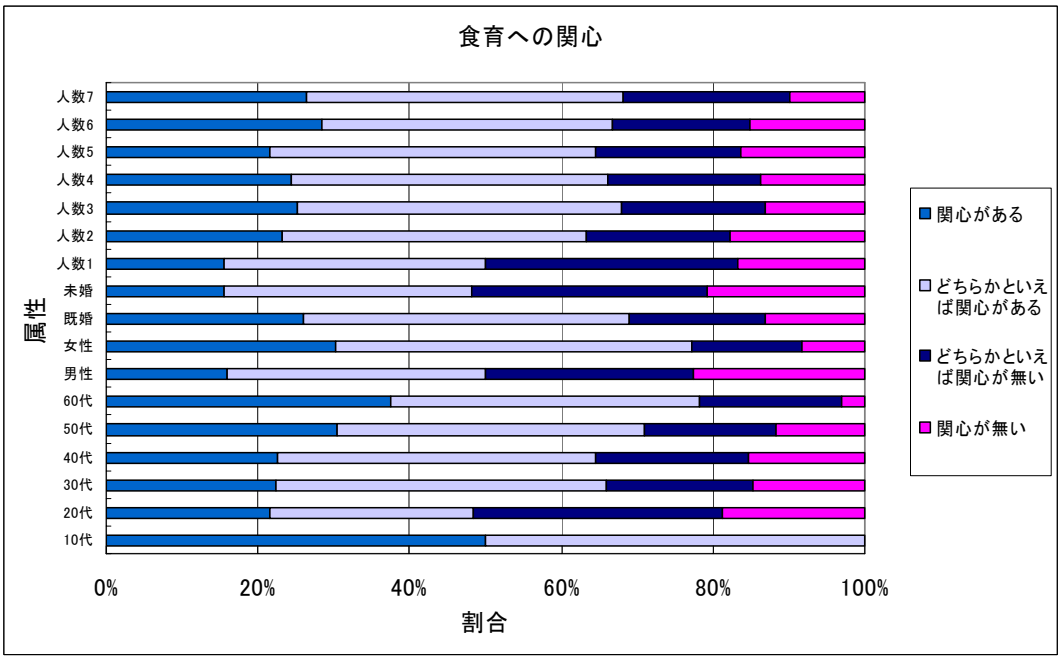
3. 食育に対しての特徴

（1）食育に対する意識

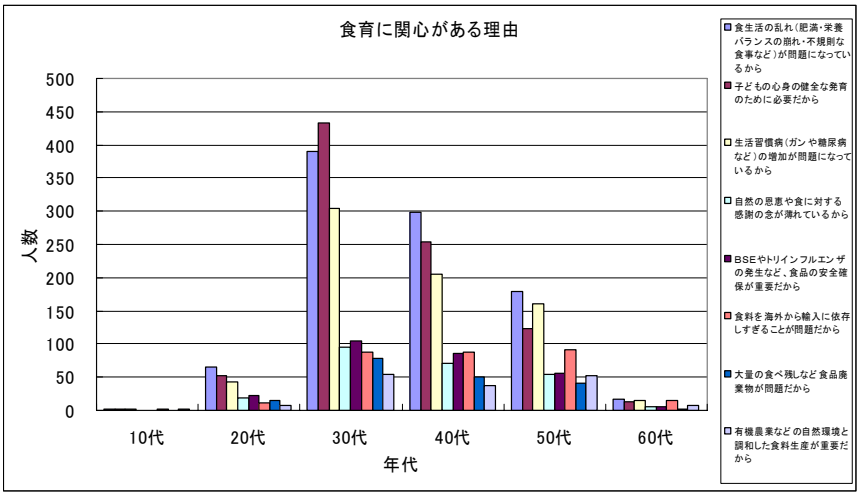
①食育の認知に対しては、「知っている」女性 54.7%、60 代 53.1%と高い。「知らない」男性 39.7%、20 代 37.6%と高い。認知度は、高年齢者ほど認知度が上がり、女性が男性より認知度が高い。また、未婚者より既婚者の認知度が高い。

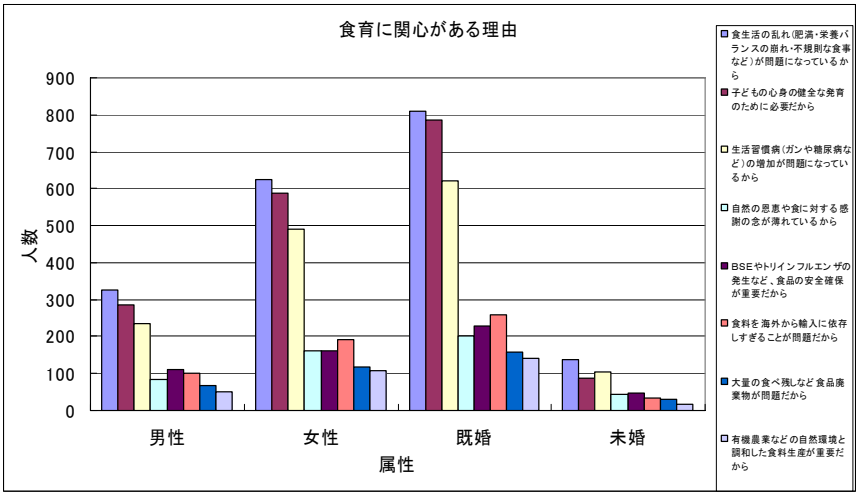


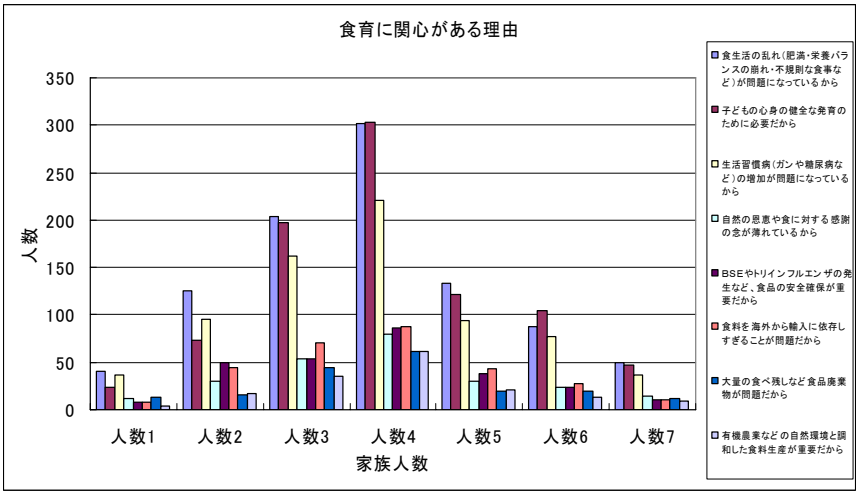
②食育に対する関心度は、「関心がある」60 代 37.5%、既婚 30.3%、女性 25.9%が高い。「関心がない」は、男性 22.5%、未婚 20.7%、20 代 18.8%が高い。年齢が高くなるほど関心が高くなる。家族構成による特徴では、1 人でも家族が増えると関心が高くなる。



③関心がある理由としては、「食料を海外から輸入に依存しすぎることが問題だから」が全体に対する比重は小さいが、60 代 18.7%と高年齢者ほど高くなっている。また、「有機農業などの自然環境と調和した食料生産が重要だから」も 60 代 9.3%と高年齢者ほど高くなっている。「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は、既婚24.5%、未婚17.4%と意識に差が大きい。同様に、2 人家族 16.2%と3人家族24%と家族人数による境が明確になっている。「大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから」は、1 人 9%と最も高かった。

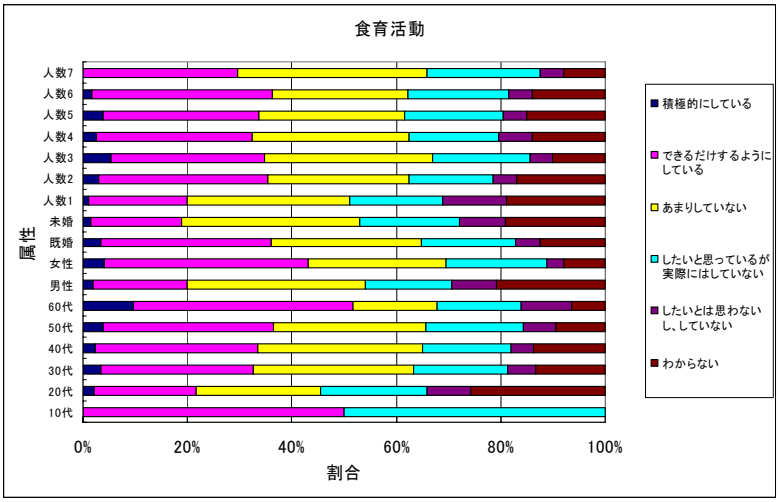




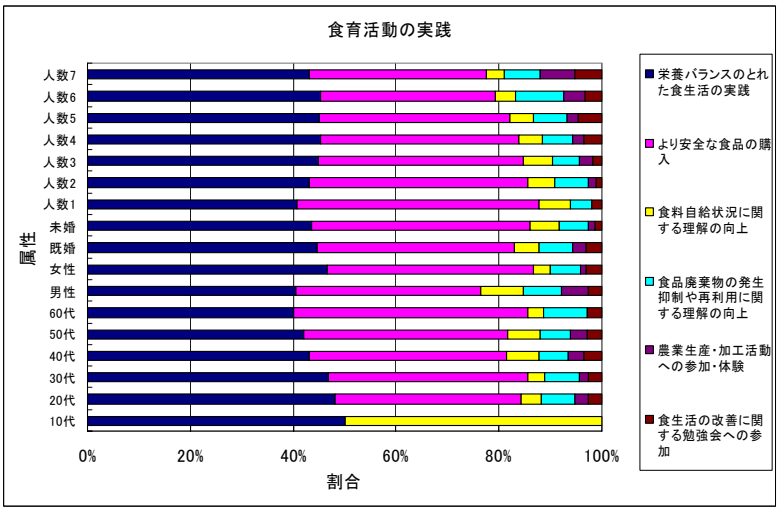


（2）食育活動

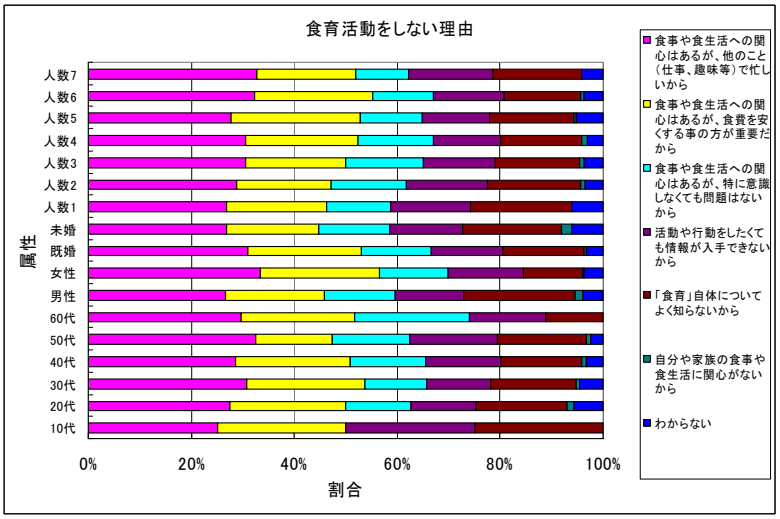
①食育に対する活動では、積極的にしている人は少ない。「できるだけするようにしている」は、前項の関心の高さとほぼ同じ傾向となっている。「したいと思っているが実際にはしていない」では、20 代 20.4%と高くなっている。「わからない」では、20 代 25.9%、男性 20.9%が高く問題意識として捉える機会が少ないと推察される。



②食育の実践では、「栄養バランスのとれた食生活の実践」20 代 48.1%、女性 46.6%が高い。「食料自給状況に関する理解の向上」は、40 代、50 代が6%台で年齢別の中で高い。女性3.3%より男性8.3%と高くなっている。「農業生産・加工活動への参加・体験」は、女性1.2%より男性5.2%と高くなっている。また、7 人家族6.9%と高い。



③食育に対する活動をしていない理由では、「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味等）で忙しいから」女性 33.4%、「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くする事の方が重要だから」5 人家族 25.1%、「食事や食生活への関心はあるが、特に意識しなくても問題はないから」60 代 22.2%、「活動や行動をしたくても情報が入手できないから」50 代 17.2%、「「食育」自体についてよく知らないから」男性 21.7%、「自分や家族の食事や食生活に関心がないから」未婚 1.9%がしない理由の中で最も高かった。



4.　全体像要約

(1) 食の安全・安心に対する意識。

安全に対する意識は高いが低年齢ほど希薄になる。家族構成による意識変化が大きい。

安全に対しての関心は、賞味期限や消費期限への注意の払い方を見ると非常に高いことが伺える。(68.8%の回答がかなり意識している)

国産は、安全と考えられているという一般的な考え方との整合性についても、輸入品との区別に対する意識を見ると 79.2%が区別していることとなった。さらに、輸入品に対しては、中国の残留農薬の問題や、医薬品の毒物混入偽装などいいかげんな管理の問題が発生した後ということもあり、原産国に対する注意を払っていることも明らかとなった。(75.9%が意識している)

農薬の使用については、「かなり意識しているが 25.5%」と 1/4 の回答があったが、国産品に対しては、適正に基準が守られているという認識から、この程度にとどまったものと思われる。農薬の使用に対しては、安全を確保するための基準の遵守や検査に対しての不信感が見られる。

家庭での料理の材料としては、生鮮食料品が 90%を超えている。しかし、冷凍食品を食事の中心としている割合も 9 %存在している。冷凍食品利用頻度の高いのは、属性によるデータから 20 代で未婚の男性さらに一人暮らしといった生活スタイルが見えてきた。

食品の安全に対してストレートに聞いたところ非常に不安と少し不安を合わせて 81.8%と高い水準となった。家族構成の変化でも、配偶者を持つことによって安全に対する意識が急に高まる。また、年齢が高くなるにつれて高くなっている。このことは、家族構成の変化とも関連しているようだ。

不二家やミートホープといった食品偽装事件が発生したことも影響したものと思われる。一方、不安を感じていないのは、前段と同じで 20 代で未婚の男性さらに一人暮らしという結果になった。

食品の、表示に対する信頼は、日本の企業は不正をしないという前提から非常に高いものになっている。しかし、不安を感じている消費・賞味期限や鮮度、産地、原材料などは、パッケージに表示されたものなどで判断するしかなく、表示を信頼しているのと反対に不安を払拭するための決定的な要素になっていないことも伺える。

(2) 食育に対する意識

重要性は感じているが、体験的な活動はしていない。表示に頼り五感を使った食品選びが希薄になっている。

全体に対する食育の認知度は、決して高くない。57%がほとんど知らないに等しい状況だった。しかし、「関心がある」とした人は、65.3%と高くなっている。関心の高さで見ると、女性、高年齢者、既婚者が高くなっている。普段から食事を作る立場であることや家族と生活している人ほど関心が高い。

理由については、生活習慣病や子供の発育、食生活に対する問題が多く体を作るために必要だからという意識が多い。環境問題や食料の需給など社会的なものに対しては、関心が向いていない状況にある。

食育に対する活動を、積極的にしている人は少ない。していない理由としては、仕事が忙しい、や食費の節約といったものが多かった。まったく関心が無いという回答も、あったが、情報が無いや知らないといったものも 30%程度あった。

食育の実践では、栄養のバランスが 45%、次いでより安全な食品の購入が 39%であった。実践で上位

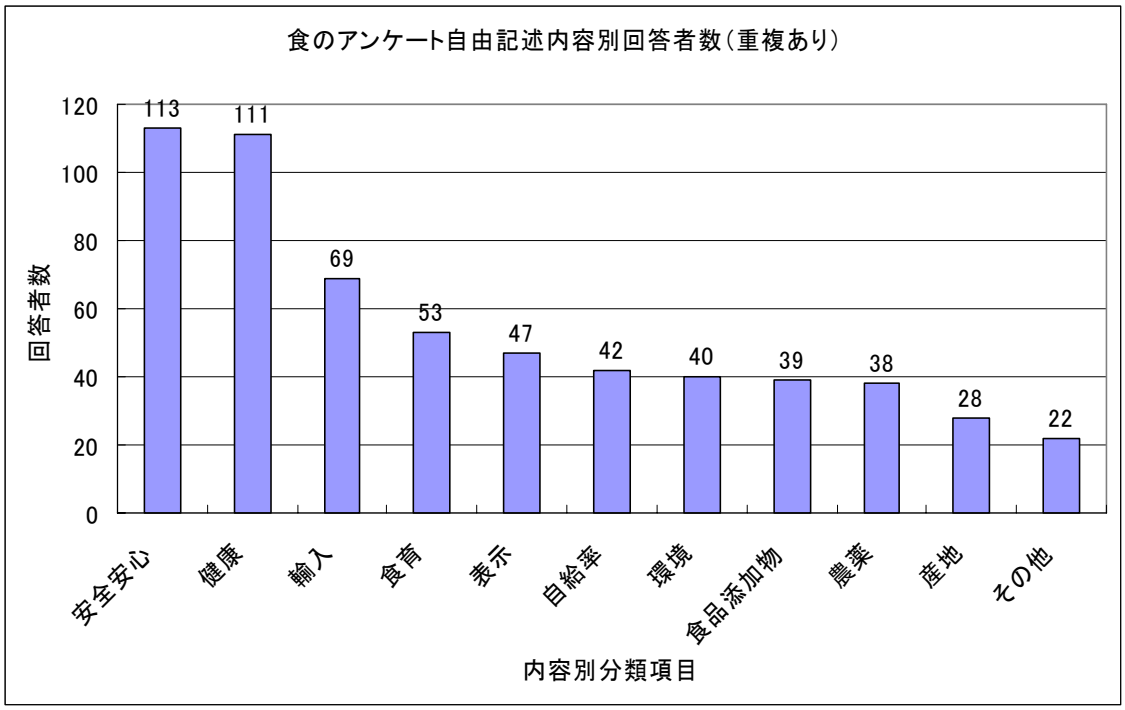
にある項目は、食品の表示に頼る部分が多い。実際に目で見て確認する活動としての、農業体験や料理教室(加工)などへの参加２％、食生活の改善に対しての勉強会への参加３％は、非常に少ない。

食のアンケート調査報告第 2 部

自由記述意見の特徴

1、全体の状況

自由意見では、安全安心に対しての意見が最も多く、113 人あった。健康 111 人、輸入 69 人、食育 53 人、表示 47 人、自給率 42 人、環境 40 人、食品添加物 39 人、農薬 38 人、産地 28 人となった。内容を見ながらの仕分けなので判断が難しいものも含まれるが、雰囲気で判断したものも含まれる。また、内容には、複数の分類に属するキーワードも含まれるため多くが、重複している。回答者は、394 人あった。



2、安全安心

キーワードは、安全、安心、不安、心配、分からない、危険などを手がかりとした。

安全安心に対する見方は、広範囲に渡っており、輸入全般から消費期限などの加工品、食品添加物、支給率、世界平和、環境、ほとんどすべてが含まれている。

意見は、広範囲で代表的な意見は、「食品は「安ければ良い」から→「安全な食品なら少し高くても良い」に変化させたい。」「食肉の国産表示・・・『国産』の信頼性が不安です。」「冷凍食品の加工は現状がどのようなものかわからないので、食生活の変化に対応して工場等がオープンにできるような企業がふえればいいなと思う。」「輸入肉は絶対買いません（安心出来ないので）」「農薬づけで見た目の良い個包装の野菜はムダで不安で購入したくない。」「輸入物が増えてきているので不安（野菜・・・農菜等）」「食品添加物がたくさん使われていますが、本当に安全なのか？とても疑問です。」「今　販売されている中国産の海産物・農作物の安全性が気になります。産地指定・契約指定農家など書かれてもいますが、中日の環境問題の新聞の記事を目にすると、とても買えなし、とても心配になります。」「将来　日本は食糧不足に陥ると思います。（地球温暖化、中国の拡大 etc・・・）今から備えをしておかなくてよいのでしょうか？（ありとキリギリスみたいになってしまう？）」などであった。

3、健康

キーワードは、健康、衛生、栄養、有機、カロリー、病気などを手がかりとした。

健康に対しても、非常に関心が高く、食べることが体を作ることであることに関係しているという一般的な認識のもとで幅広い意見が寄せられた。

代表的な意見は、「一体どれくらいの農薬・添加物が使われているのか使用料さえも分からない。購入者は受け身で、それを変えることも出来ず・・・・子供たちの世代が大人になり老いていった時、体に蓄積された害 ?！がどのような悪影響を与えるのか・・・心配である。」「子どものお弁当のおかずに、半分は冷凍食品を使っているので、もっと工夫しなければと思っている。」「身体に良いものは高い　身体に悪いものは安い身体に良いもの　安全なものを　購入したいが、価格的な問題で購入できないのが現状である。」「食育に関してはとても興味があります。現状の食生活に加え家族そろって食事をとることが減少している今日この頃なので、家族を守る主婦としては、とても責任感を感じます。台所に立つ主婦の料理で家族の健康が左右されてしまうのですから。これから 21 世紀を担う人達に添加物のない食事を摂って、これからの日本を背負って行ってほしいと思います。」「食物アレルギーに対する国の対応を強化してほしい。」「日常、スーパー等で美しい（容姿）野菜等が陳列されていると思いますが、見栄え重視されすぎて、結局 体の為によくないものを必要以上にとりすぎている感じがします。」などであった。

4、輸入

キーワードは、輸入、外国、国名、などを手がかりとした。輸入に対しては、その増加傾向に対して不安を抱いている内容が目立った。その背景としては、農薬や衛生面、環境破壊や環境対策の遅れが気にかかることから来ている。また、将来の食糧危機を感じている人もいる。

代表的な意見は、「国産・外国産の明記する様になってから、外国産の食料が多いなぁ～と感じます。」「輸入食品の安全管理を徹底して欲しい。」海外に農産物や水産物の供給を依存している傾向がある為、今後　自給率はどうなるのだろうと思います。」「以前テレビで、中国から輸入している野菜は輸入品の中でも特に危険だと説明していたが、買い物をすると中国から入ってきた野菜を多く目にする。」「日本は輸入品に頼り過ぎていると思う。以前、TV で見た「日本の食品の危機」みたいな番組でしたが、７割ぐらいが輸入品だったことに驚きました。」「安いなと手に取ると輸入品である事が多い。」などであった。

5、食育

キーワードは、食育、家族、子ども、などを手がかりとした。食育に対しては、食料を大切にすることが薄れていることに危機感を抱く意見や、家族に対して安心して食事を出したい気持ちなどの意見が多く寄せられた。食育が大切ということがはじめて知ったという意見もあった。

代表的な意見は、「食べられることの大切さを知ることは食料の大切さにつながっていくように思います。物が豊富にありすぎてありがたさが失われているように思います。作ってくださる方がいて私たちの口の中にはいることができることへの感謝の気持ちをもつことで食への関心が強くなるように思います。」「将来、食料不足が言われているのに、余りにも食べ物を粗末にしていると思う。特に若い人たちにもっと食べ物を大事にする様にしてほしい。「もったいない」と言う言葉を死語にしない様に思ってほしい。」「食育に関してはとても興味があります。現状の食生活に加え家族そろって食事をとることが減少している今日この頃なので、家族を守る主婦としては、とても責任感を感じます。台所に立つ主婦の料理で家族の健康が左右されてしまうのですから。これから 21 世紀を担う人達に添加物のない食事を摂って、これからの日本を背負って行ってほしいと思います。」などであった。

6、表示

キーワードは、消費・賞味期限、表示、添加物、原産国、などを手がかりとした。表示に対しては、本当のことが表示されているのかという不安と、もっと詳細に表示して欲しいやみやすい表示や内容

といった意見が見られた。

代表的な意見は、「原産地や消費期限のごまかしや嘘は絶対に許せません。」「産地表示を徹底して欲しい。」「アレルギー表示を徹底して欲しい。」「食品添加物について、この添加物をマウスに与えたら このような症状がでたとか「ガン」になったとか情報を消費者に教えてほしい。」「賞味期限などの日付や表示がわかりにくい所にある。」「北朝鮮の「あさり」等とても気になる。本当に安全なのか？添加物の表示を必ず見るようにしているが、よくわからない。（どこまでの量が安全なのか等）どういったものなのか資料が必要！」などであった。

7、自給率

キーワードは、自給率、食料不足、輸入、などを手がかりとした。自給率に対しては、将来に対する供給不安や海外に頼りすぎていることに問題があるといった意見があった。

代表的な意見は、「食料の自給率の低さと安全性が気になります。」「食料自給率を当面７０％程度まで引き上げるべき。農業の推進を図るべき。」「世界的な人口の増加、異常気象、砂漠化による食料不足が懸念される為、国産化率の向上が大切と考える。」「日本は輸入品に頼り過ぎていると思う。以前、TV で見た「日本の食品の危機」みたいな番組でしたが、７割ぐらいが輸入品だったことに驚きました。」などであった。

8、環境

キーワードは、廃棄、異常気象、環境、ごみ、などを手がかりとした。環境に対しては、食料のムダに対する意見が多く、過剰包装や大量に食料を廃棄することに対して問題意識が高い。また、気候変動などで食料不足になることを心配する意見もあった。

代表的な意見は、「ゴミが多い。リサイクルは結局使っているのだから、ゴミを減らすこが必要だと思う（食料品に関するゴミだけでも・・・）。」「食品を製造している会社に勤めている知人に、毎日大量の残飯を捨てている、と聞きました。余ったために、とのことで非常にもったいないと同時に他に活用できないものかと強く思いました。」「今　販売されている中国産の海産物・農作物の安全性が気になります。産地指定・契約指定農家など書かれてもいますが、中日の環境問題の新聞の記事を目にすると、とても買えなし、とても心配になります。」「農作物などの食物への軽視（農家の苦労などをあまり考えていない事など）食べ残しなどの廃棄の量があまりにも多すぎる。世界には食物難の国があるのに。」「最近、バイオ燃料（エタノール生産）が世界中を騒がせ、農畜産物の高騰を招いている事が、とても心配です。」などであった。

9、食品添加物

キーワードは、添加物、加工食品、などを手がかりとした。添加物に対しては、アレルギーや健康にどのような影響があるのか良く分からないことに対する不安が意見としてあった。加工食品に対しては、価格面で選んでしまうという意見も見られた。

代表的な意見は、「AD・HD や LD などと呼ばれる発達障害をもつ子供が増えてきています。農薬や添加物が一因といわれています。研究が進むことに期待します。」「加工品になると表示規則が緩いのは問題である！！」「食品添加物が入っていない物をさがすほうがむずかしくなってきた。1 つの食品基準値は少なくても蓄積されれば一緒だと思う、今でこそ厳しいが昔はそうでもなかったし、そのころの親から子供ができアレルギー体質の子供が増えている。もう手遅れだと思う・・・」「食品添加物の種類が多すぎて、同じ様な名前も多いし、どれだけ人体に影響があるかなどわからない。」などであった。

10、農薬

キーワードは、農薬、外国、輸入、などを手がかりとした。農薬に対しては、残留農薬に対する不

安が多く、特に中国が心配という意見があった。また、無農薬のものを購入したいが値段が高いという意見もあった。

代表的な意見は、「無農薬野菜や無添加食品は、普通の食品に比べ価格が高いので、食生活すべて無農薬・無添加食品にするには食費がかかりすぎてしまう。」「中国産の農作物は非常に気にかかります。（薬の使用等)」「最近、中国などから輸入された薬品、食品の原材料などが各国で大きな事故を引き起こしている。輸入食品の監視検査強化を望みます。」「お弁当に便利な、冷凍えだまめなど、輸入物しかないのはナゼ？原産国はタイや中国ベトナムが多い。残留農薬が心配で国産を買いたいが売っていない。」「無添加、無農薬の食品をもっともっと安くそしてわかりやすく店頭において欲しい。そして本当にそうである物だけにして安心して時間をかけずに買い物できる様に店側も努めて欲しい。」などであった。

11、産地

キーワードは、国産、外国、産地などを手がかりとした。産地に対しては、しっかり分かることで選択をしたいという消費者の意思が強く現れている。また、環境問題から国産を中心に捉える意見もあった。

代表的な意見は、「輸入食品に頼らず、地産地消の推進により安全な食品の供給ができるよう、次世代の人が養うことのできる社会環境作りを行う必要があると思える。」「世界的な人口の増加、異常気象、砂漠化による食料不足が懸念される為、国産化率の向上が大切と考える。」「食品（肉・野菜・くだもの）の輸入物が多くなってきているように思う。どちらかといえば、国産物がよいと感じる。」「国産が安心して食べられると思いますが、生産者が減少していると思います。もっと国で安全を確保できるような対策をして、国産物を増やして欲しい。」「消費者側としてはやっぱり安全な物を購入したいので、原産国、無農薬などの明記ははっきりしてほしい。」などであった。

12、その他

「生産者の保護だけでなく、発展できる様な行政の指導的な行動が不十分だと思う。」「価格が上がって困ります。」「過剰反応しすぎ。」「国内農産物流通の自由化を行い、農協を解体する。守られた体質では発展が無いのと農業人口の減少につながる。」「小さな子供がいて限られた収入の中で節約するとなると光熱費・食費になります。出来ればもっと食費を増やして上げたいのですが、それが出来ないのが現状です。児童手当が増額になりましたが、子育支援も含め " 子育てにやさしい"国になって欲しいです。」「販売店によって価格差がありすぎる。」「アンケートだけで終わるのではなく、結果に期待します。」などであった。

農建機部会業種政策委員

宇野　稔	**副部会長**	**セイレイ工業**
大塚耕太郎	**副部会長**	**ヤンマー**
浅井優明	**副事務局長**	**クボタ堺**
阿部　榮	**幹事**	**クボタ宇都宮**
松島　章	**幹事**	**共立**
本多康浩	部会担当	ＪＡＭ